

竹原市予算特別委員会

令和4年2月28日開議

審査項目

- 1 議案第4号 令和4年度竹原市一般会計予算
- 2 議案第8号 令和4年度竹原市公共用地先行取得事業特別会計予算

【総務企画部】

(令和4年2月28日)

出席委員

氏 名	出 欠
金 森 保 尚	出 席
下 垣 内 和 春	出 席
今 田 佳 男	出 席
竹 橋 和 彦	出 席
山 元 経 穂	出 席
堀 越 賢 二	出 席
川 本 円	出 席
井 上 美 津 子	出 席
道 法 知 江	出 席
宮 原 忠 行	出 席
吉 田 基	出 席
宇 野 武 則	出 席
松 本 進	出 席

委員外議員出席者

氏 名
大 川 弘 雄

職務のため会議に出席した者は、下記のとおりである

議会事務局長 笹原章弘

議会事務局係長 矢口尚士

説明のため会議に出席した者は、下記のとおりである

職 名	氏 名
総務企画部長	平田康宏
総務課長	岡元紀行
総務課資産活用担当課長	井上顕良
企画政策課長	三上満里子
財政課長	向井直毅
危機管理課長	堀信正純
産業振興課長	國川昭治
農業委員会事務局長	國川昭治

午前9時57分 開議

委員長（山元経穂君） おはようございます。

ただいまの出席委員は13名であります。定足数に達しておりますので、これより第2回予算特別委員会を開会いたします。

委員会が円滑に行えますよう委員の皆様の御協力をお願いいたします。

2月15日開催の予算特別委員会にて御決定いただきました資料要求につきましては、執行部から提出があり、2月24日に配付しておりますので御了承願います。

審査の方法については、第1回の委員会で確認したようにページを追って費目ごとに進めていきたいと思っております。一般会計以外特別会計がある場合は一般会計、特別会計の順に審査を行います。

次に、一般会計の歳入についての審査方法ですが、各事業に係る特定財源部分についてはその所管部の担当課において、またその他歳入部分については総務企画部財政課において審査するものとします。また、歳出のうち全款にわたる人事管理に要する経費については職員等の人件費であるため総務企画部一括として本日の審査対象といたしますが、時間外勤務手当に関する各課における業務量等に関し詳細に質疑したい場合はその課において質疑をお願いしたいと思います。

また、本委員会は各会計の令和4年度当初予算を審査するものであります。したがって、質疑については令和4年度予算の計上目的などかどうか、住民サービスのための効果があるのかどうか、将来の事業運営の継続に反映させる事項はないかといった視点でもって要点をまとめた上、より質疑、答弁を分かりやすく行うため、あくまでも一問一答方式により質疑していただくようお願いいたします。

説明員の方に申し上げます。本日から3月4日まで個別審査を行う予定としておりますが、委員からの質疑、特に予算計上額の積算根拠に対して答弁調整にならないよう資料等、前もって十分なる準備をいただき、答弁は質疑に対して的確にされるようお願いいたします。なお、発言の際は職名をはっきり述べ、挙手をして発言を求め、マイクを利用しに行くようお願いいたします。また、質疑、答弁は着席したままで行ってください。

本日は総務企画部の所管の審査となります。

それでは、総務企画部所管の審査を行います。

総務企画部長より担当所管事務事業について説明を求めます。

総務企画部長。

総務企画部長（平田康宏君） 改めまして、皆様おはようございます。

委員の皆様におかれましては大変お忙しい中、予算特別委員会を開催していただき誠にありがとうございます。本日から個別審査ということでございます。どうぞよろしく願いいたします。

まずは、総務企画部からでございます。ここからは着席して説明させていただきます。

では、私のほうからは令和4年度当初予算案の概要から主なものを説明いたします。

まずは、4ページをお開きください。

中段の（2）の当初予算の考え方でございます。

令和4年度当初予算におきましては、令和3年大雨災害等からの着実な復旧、復興を図るとともに、大規模な風水害や地震が発生しても機能不全に陥らない強さとしなやかさを持った災害に強いまちづくりに向けた取組及び新型コロナウイルス感染症や経済危機に強い新しい生活様式等へ対応した強靱かつ自立的な地域の社会経済の構築に向けた取組を引き続き着実に実行することといたしております。

また、本市の貴重な地域資源であります人、地域、歴史文化、市民の声を生かし、住みやすさ、暮らしやすさに磨きをかけ、暮らしの満足度の向上を図る「たけはら元気プロジェクト」をさらに推進するため、人々を呼び込む力づくりを推進する事業及び人々を育てる力づくりを推進する事業に令和4年度当初予算を重点的に予算配分をしたものでございます。

令和4年度におきましては各施策を着実に実行し、より安全で安心な強い竹原市の実現に向け取り組むとともに、生まれてよかった、住んでよかった、帰ってきたい、住んでみたいと思える元気な竹原市のさらなる前進に取り組み、誰もが住みやすいと実感し誇らしく思える町を目指してまいります。

令和4年度当初予算の編成に当たりましては、既存の事業を再度確認し、事業効果が小さくなっている事業等については見直しを行い、事業の選択と集中に取り組んだものでございます。

当初予算の考え方を踏まえまして、6ページ以降において元気な竹原市の実現に向けた取組といたしまして、総合計画の体系別に新規事業、拡充事業、主な事業として明示しているものでございます。

また、総合計画におきましては災害からの復旧、復興を重点テーマとして設定いたしております。

11ページをお開きください。

こちらに掲げておりますみんなで作る元気・笑顔あふれる強い竹原市の実現によりまして、平成30年7月豪雨災害、令和3年の大雨災害等からの早期の復旧・復興に向けた取組を推進いたしますとともに、災害に強いまちづくりに取り組むものでございます。

加えまして、13ページをお開きください。

こちらにございますように新型コロナウイルス感染症緊急対策といたしまして、感染症対策及び新しい生活様式等へ対応した強靱かつ自立的な地域の社会経済の構築に向けた取組を着実に実行いたしますものでございます。

恐れ入りますが、5ページにお戻りください。

5ページにお戻りいただきまして、中段付近の(3)の会計別予算総括表でございます。

こちらにございますように、一般会計の総額で133億7,804万3,000円、特別会計、下水道事業会計、水道事業会計を含めると全体で225億3,780万6,000円の予算案といたしております。一般会計の当初予算規模でございますが、令和4年度におきましては普通建設事業の増などによりまして予算規模が130億円を上回っているものでございます。

続きまして、総務企画部に関係する新規事業につきまして御説明いたします。

16ページをお開きください。

16ページ上側の竹原発スタートアップ支援事業でございます。こちらにつきましては、産業を支える人材を確保、育成、定着させることによりまして本市の産業を活性化しにぎわいを創出するため、高等専門学校生が地域課題の解決に係る実証事業を通じまして新しく事業を起こす、起業でございますが、起業する際に必要な事業者目線の経営知識、経験を養う事業を行う事業者に対しまして補助金を交付するものでございます。

次に、同じページの下側の観光地域づくり法人DMO設立事業でございます。こちらにつきましては、アフターコロナを見据えまして地域の特性を生かした観光施策を展開するため、地域資源とその課題を掘り起こし、指針となります、仮称でございますが観光振興ビジョンを策定いたしまして観光客の誘致や地域資源の高付加価値化を実行する官民が連携した観光地域づくり法人の設立に取り組むものでございます。設立法人につきましては観光地域づくり法人DMOの登録、認定を目指すため、知見やノウハウを有する企業人の派遣を引き続き活用いたしましてこれらの業務に従事させることとするものでござい

す。

続きまして、17ページをお開きください。

上側の移住人口拡大推進事業でございます。

こちらにつきましては、移住希望者が望む物件の提供を可能とするため、調査によって物件の掘り起こしを行いまして空き家バンクへの登録を促すこととするものでございます。

続きまして、18ページをお開きください。

下側のお試し暮らし宿泊助成事業でございます。

こちらにつきましては、JR西日本と尾道市、三原市、竹原市が連携して実施いたします瀬戸内ファンづくり協定事業でございます。概要といたしましては、瀬戸内の資源・魅力を生かし地域づくりの担い手を地域外から呼び込むことで地域の発展と新たな収益を創出するため、県外在住で本市を訪れる方が市内で仕事や住まいを探したり生活環境を体験するため市内で2泊以上する場合に宿泊助成をするものでございます。

続きまして、42ページをお開きください。

下側の竹原市庁舎移転事業でございます。

こちらにつきましては、災害対策拠点として耐震性能等の必要な機能を備えまして、災害時におきましても安定的に業務を継続することができる庁舎を整備するため竹原合同ビルを取得するものでございます。

続きまして、43ページをお開きください。

上側の高規格救急自動車整備事業でございます。

こちらにつきましては、救急業務対応に万全を期するため消防車両等整備更新計画に基づきまして、忠海分署の消防救急車両の整備、更新を行うものでございます。

続きまして、44ページをお開きください。

下側の救急業務総合システム整備事業でございます。

こちらにつきましては、現場滞在時間の短縮、救急業務全体の高度化を通じた市民の救命率及び救急の質の向上を図るため、患者の情報を医療機関とリアルタイムで共有するシステムを構築するものでございます。

総務企画部に関係する新規事業につきましては以上の7件でございます。

なお、この7件につきましては先ほど災害関係で申しましたが、重点テーマとしておりますみんなで作る元気・笑顔あふれる強い竹原市の実現の取組であります事業にも位置

づけているものでございます。

最後に、歳入のうち市税と地方交付税につきまして御説明いたします。

恐れ入りますが、56ページをお開きください。

まず、市税でございます。

令和4年度につきましては市税全体で合計50億6,334万8,000円を計上いたしております。前年度と比較いたしまして1億4,404万1,000円、2.8%の減を見込んでおります。

主な増減要因でございますが、個人市民税につきましては納税義務者数は微減を見込みますものの1人当たりの所得額が増加することが見込まれますことから、前年度と比較いたしまして3,727万6,000円、3.7%の増を見込み計上いたしております。

法人市民税につきましては企業の決算見込み等を基に業績を見込みました結果などから、前年度と比較いたしまして4,430万1,000円、25.8%の増を見込み計上いたしております。

固定資産税でございますが、土地につきましては宅地及び宅地比準土地の価格の修正を行いました結果、前年度と比較いたしまして1,897万2,000円、3.2%の増を見込み計上いたしております。

家屋につきましては新築、増築に伴う増が見込まれますことから、前年度と比較いたしまして5,362万2,000円、7.2%の増を見込み計上いたしております。

償却資産につきましては大規模償却資産の調定額が減少するため、前年度と比較いたしまして2億9,909万3,000円、12.4%の減を見込み計上いたしております。

続きまして、57ページの上段を御覧ください。

地方交付税でございます。

令和4年度につきましては合計22億1,631万9,000円を見込み計上いたしております。前年度と比較いたしまして5億8,603万円、35.9%の増を見込んでおります。

主な増の要因でございますが、普通交付税につきまして固定資産税の減少等によりまして基準財政収入額が減少し、基準財政需要額につきまして増加が見込まれますことから、前年度と比較いたしまして5億8,970万円、50.5%の増を見込み計上をいたしているものでございます。

私からの説明は以上でございます。どうぞよろしく御願いいたします。

委員長（山元経穂君） それでは、総務企画部長より説明が終わりましたので、質疑を行ってまいります。

まず最初に、歳入、一般会計予算書のほうをよろしくお願ひいたします。

18ページ、19ページ。

19ページの下段まで、地方譲与税について質疑のある方はお願ひいたします。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） 続きまして、20ページ、21ページ、利子割交付金と配当割交付金、3番、4番について質疑のある方はよろしくお願ひいたします。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） 続きまして、株式等譲渡所得割交付金、5番目、質疑のある方はよろしくお願ひいたします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） 続きまして、6番、7番、法人事業税交付金、地方消費税交付金について質疑のある方はお願ひいたします。

松本委員。

委員（松本 進君） 消費税に関わってちょっとお尋ねしたいのですが、私、資料も要求しております、その資料要求の3ページにそれが載っていますが、要するに10%の消費税が今かかっていますけれども、家計で見ると資料要求のほうの3ページから出るほう、出のほうの消費税の影響額、10%ですね。それから、ここに今あったような21ページの地方消費税交付金ということで5億4,000万円がこの入りというのですか、そういうような扱いはないかと。この中に社会保障財源が5億4,000万円余りのうち社会保障財源の交付金が約3億円、2億9,600万円ということで3億円近くの社会保障に使いなさいよということになっています。これは特定財源ではないから今確認したいということの質問なのですけれども。

この資料とこの交付金の分では出と入りを見ると差引き6,435万円の入りといいますが、収入という言い方がいいのかどうか分かりませんが、消費税の分では出と入りで見たら入りのほうが6,400万円余りあります。

それと、ここの交付金を見ると社会保障財源に使いなさいよというのが約3億円あつ

て、聞きたいのは新年度で3億円なりの社会保障財源、さっき言った消費税と交付金の関係で出と入りで見たら6,400万円しかない、竹原市の会計で見たら。だから、新年度には具体的にどういった、主な分でいいですけども、社会保障の事業にこの約3億円近くが充てられているのか、あるいは6,400万円になるのかということをちょっと説明していただきたい。

委員長（山元経穂君） 財政課長。

財政課長（向井直毅君） 地方消費税の交付金の件についての御質問でございます。

先ほども委員がおっしゃられましたとおり、社会保障財源として2億9,600万円、おおむね3億円近く交付金が交付されておりますが、これは全額社会保障の財源として活用をいたしております。中身といたしましては主には社会福祉、社会保険、保健衛生等々、歳出予算の総額でいえば約43億円ほどこちら、新年度予算を計上いたしておりますが、そのうち特定財源を除いた一般財源として23億円ほどこのたび予算を計上させていただいております。そのうちの約3億円は全てこちらの一般財源部分の中に、いわゆる財源として全額こちら充当するような形で予算を組ませていただいております。

以上でございます。

委員長（山元経穂君） 松本委員。

委員（松本 進君） 確認なのですが、特定財源ではないですからここへ使いなさいという決めた分がちょっとないですよ。それで、その確認を含めて、先ほど家計で見たら消費税10%分の出と国から入ってくる入りで見ると6,400万円余りの、差引き6,400万円余りの消費税分のお金といたしますか、これが残る。竹原市の家計で見たら。

だから、実際ここに書いてある社会保障の財源で約3億円って書いてあるのだけれども、これ本当にそこに純粋に消費税10%でこれだけ来るわけですから、そこへ使うものといったら、今までの分のどこかを削らないといけないのかなという見方といたしますか。ですから、出と入りとさっき言ったのは6,400万円しかない。しかし、ここは社会保障の財源が3億円近くあって今説明があったという意味では、ここに本当に使えるのかなという分でもう一回確認しておきたい。

委員長（山元経穂君） 財政課長。

財政課長（向井直毅君） それでは、お答えいたします。

まず、原則資料要求をいただきました消費税相当額のいわゆる歳出の10%、こちらと

社会保障の地方消費税の交付金の関連性というのは、昨年度も申し上げましたが全くこれ
はございません。あくまで歳出については物件費等々、要はいわゆる支出に対して10%
相当額を通常の支払い、民間とか個人の支払いと同様に10%の消費税分を掛けて支払っ
ているものでございます。

それを全国で集めました中で一定のルールの下、地方消費税交付金として本市において
歳入はされるわけですけれども、当然社会保障財源として交付されたものは、全て先ほど
も申し上げましたとおりそういった社会福祉でありますとか、保健衛生等々に充当いたし
ておりますので、それは確実にそこは充当して使用するというような形で今予算を組んで
おります。

したがって、要は8%から10%になった歳出につきましては通常の経常経費の削
減等々、内部管理経費をしっかりと見直す中でそういった費用は捻出をいたしております。

以上でございます。

委員長（山元経穂君） いいですか。

宮原委員。

委員（宮原忠行君） 去年もちょっと予算の見込みだからなかなか難しい面はあると思っ
ただけで、今の地方消費税交付金よね。今年度は前年比で2,993万1,000円の減
で見ているのよね。

それで、補正、この前可決した補正予算13号でいくと、6億1,021万円なのよ。
それで、今の社会保障財源交付金が3億3,956万2,000円、地方消費税交付金が
2億7,064万8,000円とこうなっているのよ。

それで、やっぱりそうした補正予算も含めて地方消費税交付金、大きいから。これの予
算の見積りというのは何でそこまで減額しなければいけなかったのかというのがよく分か
らないのよ。

それで、去年ならばコロナで消費が落ち込むのではないということである程度は理解で
きていたのよ。では、現実には消費に関しては、旅行などいろいろなものは直接的にはあ
るけれども、全体とすれば消費に影響を与えているとは思わないのよ。

それでその中で、何で2,993万1,000円の減額にしなければいけなかったの
か、そここのところの考え方を教えて。

委員長（山元経穂君） 財政課長。

財政課長（向井直毅君） すみません、こちらの地方消費税交付金も含めまして地方譲与

税というのは基本的には本市のほうで直接積算をしているものではございませんで、国の通知に基づき数値を入れさせていただいております。

したがいまして、令和3年度につきましても、令和4年度につきましても、国が一定にこの金額でという形で通知をいただいておりますので、すみません、そういった形で御理解をいただければと思います。

委員長（山元経穂君） 宮原委員。

委員（宮原忠行君） 分かりました。

しかし、さはさりながら、やっぱりそこら辺のところのやり取りというのは、当然県を通してであるのだけれども、やはり当初予算の見積りの正確を期するためにはそこら辺のところもしっかり要望していきながら、いや、国が決めたからもうそのとおりのことになって、分からないことはないが。しかし、また補正が出てくるだろうな、多分。

以上です。

委員長（山元経穂君） よろしいですか。

その他ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） 続きまして、同じ20ページの9番と23ページの上段まで差しかかります。環境性能交付割と地方特例交付金について質疑のある方はお願いいたします。

宮原委員。

委員（宮原忠行君） 最初に確認しとかないといけないね。この環境性能割交付金も国から配分があってこういうふうに予算を組みなさいとこうなるのよね。それなら、質疑しても仕方がないよね。

しかし普通で考えたら、これも13号補正でいえば減額になって、今の車の販売状況を示しているのよ。これ基本的にコロナの問題もあるが、それ以上に電子部品の関係で、あのトヨタでさえも相当大きな減産計画になっているのよ。そうなってくると、やっぱりここら辺もちょっと理解がし難いというか。もちろん国のほうも経済成長率を見込んでやっているから、こういう形になってくるのかも分からないのだけど、そこら辺は合点がいけないところはあるわ。答弁はいいです。

委員長（山元経穂君） よろしいですか。

委員（宮原忠行君） はい。国から来ている分だから、それしか答弁ない。

委員長（山元経穂君）　そうですね。

その他ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君）　続きまして、22ページの12番、交通安全対策特別交付金について質疑のある方はお願いいたします。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君）　では次、ページ飛びまして、40ページをお願いいたします。

40ページの下段から43ページの中ほどまで、財産収入について質疑のある方はお願いいたします。

松本委員。

委員（松本 進君）　43ページの細かいのを聞きたいと思うのですが、不動産売払ってありますね。43ページの真ん中。不動産売払収入。

委員長（山元経穂君）　1と2だけです、まだ。入ります、入ります。

松本委員。

委員（松本 進君）　43ページの不動産売払収入で、2のところが保留地売却売払収入これが1円になっているけども、ちょっと確認したかったのが……。

委員（宮原忠行君）　1,000円。

委員（松本 進君）　1,000円になっているのは、確認したかったのが既にもう今の保留地、あれが処分してないというのか、今年度では一応1,000円の予算計上しかないの、今までは全部売れているというような確認でいいのでしょうか。

委員長（山元経穂君）　財政課長。

財政課長（向井直毅君）　こちらの区画整理地域のいわゆる保留地の処分金ということではございますが、令和4年度についてはまだ確定的なものが定まっておりませんので、一応存目として1,000円という形で一旦は予算計上をさせていただいておりますが、これは進捗状況に応じてそれは保留地の売却が進めばそこは収入として歳入する予定といたしております。

以上でございます。

委員長（山元経穂君）　よろしいですか。

ほかにごございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） 続きますて、同じ42ページ、18番、寄附金について質疑のある方はお願いいたします。

金森委員。

委員（金森保尚君） よろしく申し上げます。

ふるさと納税の寄附金のところで御質問いたします。

これ前年対比で見ると前年が8,300万円、今年度が1億3,300万円ということで5,000万円の増というふうな収入になっています。非常にこれは期待できるところなのでぜひ実行していただきたいと思うのですが、質問が、この5,000万円増について、どんな施策によってやるというのはまた経費のところでお聞きしたいのですが、ここではこの5,000万円の増の内容といたしますか、アイテムの案といたしますか、こういうもので増を見込んでるよというものを回答お願いします。

委員長（山元経穂君） 資産活用担当課長。

資産活用担当課長（井上顕良君） ふるさと納税の寄附金の増を見込む理由ということと思います。

新年度におきましてもいわゆるインターネット上のプラットフォーム、こういったものの追加等も検討しております。前年度も追加したことによりまして7,000万円を当初で見込んでいたものが決算見込みでは8,000万円になるなど、大変順調に推移しておりますので、プラットフォームの増加というものが寄附金の増に十分つながるコンテンツであるというふうに解釈して新年度は3年度の決算額プラス2,000万円という形で現在考えております。

以上です。

委員長（山元経穂君） 金森委員さん、よろしいですか。

委員（金森保尚君） はい。

委員長（山元経穂君） その他ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） ないようですので、続きますて42ページから45ページの間で19番、繰入金と20番、繰越金について質疑のある方はお願いいたします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） 続きますて、雑入も一応含めまして市債、臨時財政対策債のみで

す。49ページまでで質疑のある方はお願いいたします。

下垣内委員。

委員（下垣内和春君） 市債の運用についてお伺いをさせていただきます。

令和4年度の当初予算案では事業を行うために市債の利用額17億4,550万円と大変多くなっていると思います。令和3年度当初予算に比べると8億100万円ほど増えているわけですが、事業を行うためには必要なものだと考えますが、市債もどうしても返済をしなければならないと思いますけれども、この当初予算案の17億4,550万円の交付率と金額をお伺いしたいと思います。

委員長（山元経穂君） 財政課長。

財政課長（向井直毅君） お答えいたします。

まず、市債でございますが、臨時財政対策債につきましては全額交付税算入されますので、一旦それを除いて説明をさせていただきますと、全体といたしましては令和4年度、約15億円ほど市債を発行する予定といたしております、そのうち約40%は地方交付税として基準財政需要額に編入されるというような形で今考えております。

以上でございます。

委員長（山元経穂君） 下垣内委員。

委員（下垣内和春君） 今後、市債の運用についてはどうしても事業をやっていかないといけないという中で、その運用についてはどのような考えで対応するのかということについてお伺いします。

委員長（山元経穂君） 財政課長。

財政課長（向井直毅君） 市債の運用につきましては、いわゆるいろんな市債の種類がございます、そのうちできるだけ交付税措置が高い有利な起債を活用しながら運用はさせていただければというふうに考えております。

しかしながら、有利な起債とはいってもそこには一般財源というものは当然入ってきますので、では全て何でもかんでも市債を発行すればいいというわけでもございませんので、そこは選択と集中をしっかりと見極めながら、必要な事業に対して有利な起債を探してそこは運用をしていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

委員長（山元経穂君） 下垣内委員。

委員（下垣内和春君） 最後にお伺いしますけど、平成30年7月豪雨災害、おおむねほ

とんど済んだというような中で、そのときにかんりの市債を使って事業をしていると思いますが、それに対する交付金については今後まだ交付税措置があるのかどうかについて伺います。

委員長（山元経穂君） 財政課長。

財政課長（向井直毅君） 平成30年災害につきましては激甚災害の指定もされたこともありまして、起債の交付税算入というのはかなり通常に比べては有利なものというふうになっておりまして、大体この平成30年の災害、災害復旧に係ってはおおむねそうなのですけども、3年間の据置きがございます。

したがいまして、起債の償還というのが大体来年、再来年あたりから始まりますので、その起債の償還に対して交付税として基準財政需要額に今後乗ってくるというふうに御理解をいただければと思います。

委員長（山元経穂君） その他ございませんか。

堀越委員。

すみません。質疑者はどの項目に当たるかをはっきり明記した上で質疑していただきますようよろしくお願いいたします。

堀越委員。

委員（堀越賢二君） 47ページのその他収入のところ、昨年の予算特別委員会においてこのネーミングライツがあった分、これ分けて表記をするべきではないのかといったような委員からの意見があり、今回の予算書のほうにはネーミングライツ料ということで180万円、これ5年間ということで今回はこういうふうな形で記載をされています。

その一番下のその他収入、今年は404万6,000円という金額になっております。これと分けてこのたびは記載されているネーミングライツ料の180万円を足すと584万6,000円ということで、昨年度は2,068万3,000円ということで1,483万7,000円減となっているこの大きな要因といったようなものはどこでしょうか。

委員長（山元経穂君） 財政課長。

財政課長（向井直毅君） こちらにつきましては昨年、指摘をいただきましたネーミングライツ料も含めまして、ある程度金額が大きいもの、またその他収入として分けるべきでないものというものを精査をさせていただきました。

その中で一番大きいものとしたしましては郷土産業振興館の売上収益金、来年度は約1,000万円ほど見込んでおりますが、昨年度はこれその他収入の中に入っております。

たので、それを別出しにしたことによりましておおむねそれがその他収入が減った要因であるというふうに御理解をいただければと思います。

委員長（山元経穂君） よろしいですか。

その他ございませんか。ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） それでは、市債のところを閉じさせていただいて、54ページ、総務費、総務管理費から入りたいと思います。

まずは、54、55で質疑のある方はお願いいたします。

この中で、すみません、総務管理費の一般管理費、61ページまでございますが、行政連絡に要する経費55ページ、6番、会計一般事務に要する経費59ページ、7番、口座振込推進に要する経費59ページ、12番、物品調達に要する経費61ページ、この4項目は除きます。すみません。

下垣内委員。

委員（下垣内和春君） 人件費についてお伺いをします。

ページ数は、すみません、55です。

人件費については令和4年度当初予算案は令和3年度当初予算よりは1,268万円ほど増えております。令和4年度は職員の給与カットはしないと伺っております。財政健全化計画ではカット率からいけば約5,000万円ぐらいのカットではなかったかと思っております。

令和4年度の当初予算案の人件費は職員給与を戻してもこのような差にとどまっている要因についてお伺いをいたします。

委員長（山元経穂君） 総務課長。

総務課長（岡元紀行君） 職員給与についての御質問でございます。

これまでの財政健全化計画におきましては職員の給与の減額措置、令和3年度、本年度につきまして約6,000万円程度の効果を見込んでおりまして、減額措置が終了いたします令和4年度においては単純にその額が純増するということと思われるところでございますが、そこまでの増となっております。

その要因といたしまして、まず職員の給与のうち課長級の職員につきまして、給与の位置づけとしまして7級職を6級職に見直しを行っております。それが令和4年度におきまして約780万円、こういった減と、増えるところが減っているいわゆる減ということの

要因の一つでございます。

さらには来年度、期末手当の率が見直す予定でありますことから、こちらが全会計で約1,300万円が減になる予定となっております。これに併せまして、共済費等も影響がありますことから、これが約250万円、こういった影響がございます。

こういったものに併せまして、給与額の中でも育児休業者が来年度、今年度の2名に對しまして7名とちょっと予定として多い予定がございます。育児休業者につきましては給料は共済費からの支払いということになりますので計上していない部分がございます。こちらが約3,000万円程度になるといったところもでございます。そういったものも積み上げまして、本来5,000万円、6,000万円の額というものが1,200万円という形になっているという要因でございますので御理解ください。お願いします。

委員長（山元経穂君） 下垣内委員。

委員（下垣内和春君） 財政健全化では職員の適正化等に取り組むということであったと思います。その効果と適正化を、それにでもそういう状況の中でこういう数字になったのか。私としては職員の給与はカットしなくても今年度からいいのかなと個人的には思っていますけれども、なかなか財政健全化で市民の皆様方にいろんな御迷惑をかけているわけでございますので、今後とも引き続きそういうことについてはしっかり対応していただきたいと思います。そのことについて。

委員長（山元経穂君） 総務課長。

総務課長（岡元紀行君） 委員のおっしゃるとおり、給与の減額措置は年度末をもって終了するわけでございますが、今後この措置の結果等、検証してまいりまして、その上で給与の制度の見直しにつきましては今後さらに見直しを行ってまいりまして、下げていくところ、また引き上げるところ、そういったものもあると思います。こういったものも併せまして引き続き適切に見直しを行ってまいりたいと思いますのでどうぞよろしく願いいたします。

以上です。

委員長（山元経穂君） 松本委員。

委員（松本 進君） 55ページの人事管理の3の時間外勤務手当に係ってお尋ねしたいと思います。

毎年のことなのですが、予算の資料説明で24ページに市の職員の残業時間、それから23ページには現在の職員の正規と非正規の数を書いておりまして、23ページを見ると

正規職員の数は全体の47%、非正規が53%という状況であります。

それで、24ページの残業時間の資料を見ていますと、選挙管理委員会が一番、合計で1,377時間を2で割った、これは単純平均ですけども、年間で見ると688.5時間、これは残業ということです。あとは建設課とか何人か順位で見れば残業の多い順になるということで、特に選挙管理委員会事務局で月別を見ると4月とか9月、10月、11月、12月等で見ると、それは2人しかおられないからこれを単純で割ってみると、例えば10月の月で見ると426時間残業をしていると。11月は369時間残業をしていると。これを割れば、1人が216時間、213時間とかというような状況で、過労死の基準の2.6倍近くこの仕事を……。

委員長（山元経穂君） 松本委員、マイクをお願いします。

委員（松本 進君） こういう過労死を超えるような、2.何倍というような異常な事態の労働、残業となっていますよね。ですから、ここは毎年指摘しているんですけども、職員の数というのはさっき正規と非正規の数を言いました。そして、この残業時間の資料を見ると分かりやすいのが選挙管理委員会、10月は2人で426時間、これ単純計算で見ても1人が213時間で過労死の基準の2.6倍という誰が見ても労働基準法をはるかに超えるような苛酷な実態があります。

ここで聞きたいのは、これは今一つの選挙管理委員会ですから、建設課とか危機管理課等々でいろいろやっぱり相当大きな残業がされています。ということで、今把握されているので聞きたいのだけれども、月に80時間を超えるような残業というのがこれが市職員で何人ぐらいおられるのかというのがちょっと把握されてれば聞きたいのと、毎年指摘しているように、例えば選挙管理委員会ではもう事務が突然ぱっと起こるわけではないわけですから、選挙日程がもう事前に分かるわけですから、そこで職員体制は厚くしてその残業時間を減らすようにしていくと。いろんな工夫もあると思うのですけれども。そうしないとこの10月、11月と過労死の何倍と、2.6倍以上とか、いくらなんでも無理だと思うのですよ。これ改善なんかはどう考えているのかをちょっと聞いてみたい。

委員長（山元経穂君） 総務課長。

総務課長（岡元紀行君） お尋ねの時間外勤務のことでございます。

まず、80時間以上の勤務者についてでございますが、令和3年度の資料でございます。まだ年度途中でありますのでこういったところの集計というものはまだできておりません。この点御理解ください。

それで、先ほどお尋ねのございました選挙管理委員会の勤務の対応についてでございます。本年度のことでございます。令和3年度におきましては国政を含めます選挙が4回あったということでございます。4月には参議院の再選挙、10月からは衆議院の総選挙、11月には県知事選挙、12月には竹原市長選挙が実施されたというような状況でございます。特に10月から3か月続けての選挙ということで非常に事務が集中をしたということでございます。

そのため、今年度におきましては職員を1名増員をするとともに、他の課からの職員の応援でありますとか、会計年度任用職員の雇用などで対応を行っていたのですけれども、それにつきましても準備期間が非常に短期であること、また選挙期間が長い国政選挙であったということから時間外勤務が増加となったような状況でございます。

我々といたしましても職員の体調、まずは職員の体調をとということを所属長と連携をしながら日々管理を行っております。早く帰れる日は帰っていただくような取組をさせていただいております。

しかしながら、こういった結果になった、勤務時間になったということは大変重く受け止めております。令和4年度におきましても国政選挙を含めまして、7月には参議院、11月には竹原市議、そして翌4月には県議、広島県議会議員の選挙が予定をされているということから、まずはミスのない選挙事務に努めていくのは当然ではございますけれども、職員の安全といえますか、衛生管理については十分対応できるような体制を考えてまいりたいと思っておりますのでどうぞよろしく願いいたします。

委員長（山元経穂君） 松本委員。

委員（松本 進君） この残業に関わっては、特に毎回指摘しているのです。それと、ぜひ部長に基本的な考え方を聞きたいのだけれども、私はこういう、特に選挙管理委員会みたいなものが事務が分かりやすいというのでもう予測できる。そこに対して緊急にも人配をそこに厚くしてというのですか、選挙管理事務のところの負担を軽減するために職員を厚くしてとか、それを即刻できてやらないと、11月というのは過労死が80時間、この2.6倍とか。11月は2.47倍とか、これはどう考えても異常ですよ。

だから、病気にならなかったのが不思議なくらいで、この過労死さえもう異常な事態、これを超えたら異常な事態です、過労死になるよと。この2.6倍とか2.5倍とか、これは即対応できるのに何でやらなかったか、ぜひ聞いておきたい。

委員長（山元経穂君） 総務企画部長、労働実態も含めて答弁のほどよろしく願いいた

します。

総務企画部長。

総務企画部長（平田康宏君） 以前から委員にはこの時間外勤務に関する御質問をいただいております。職員の健康管理を心配されているということでございます。選挙事務におきましては、以前もお答え申し上げましたが、常勤の職員とともに併任の職員、また会計年度任用職員の活用ということを行っております。

結果としまして本年度につきましては先ほど総務課長も申し上げましたが、複数の選挙が重なっていたという事象はありながらも、任期満了における選挙はもう期日自体も予測できておりましたので、そういった面からもここ数年、こういった状況が続いているというのは我々も重く受け止めているところでございます。

そうした意味からも、来年度以降もまた選挙ございますが、働き方としてどうかというのと、日々の業務プラス選挙事務において、かなり特殊な事務でございますのでミスは許されないということと、当然さりとて選挙期間も踏まえまして告示から期日前投票、当日の投開票日まで事務は続くわけでございまして、また国、県の選挙につきましては県でのヒアリング研修等もございますので、そういった意味での労働時間ということもございません。

健康管理の面におきましては特に心身ともに疲労した場合、当然産業医、また産業カウンセラーの活用も行っておりますが、そうは申しましても日々の業務に対して働き方、ふだんからその心がけがとても重要と思っておりますので、今委員からいただいた意見を踏まえまして今後の取組に進めてまいりたいと思っております。

以上でございます。

委員長（山元経穂君） よろしいですか。

その他ございませんか。

55ページの末まで。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） 続きまして、次のページ、56ページから57ページまでで質疑のある方はお願いいたします。

ございませんか。

56ページ、57ページ、よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君）　続きまして、58ページ、59ページまでの間で質疑のある方は
お願いいたします。

宇野委員。

委員（宇野武則君）　59ページの9の1ですか。任用職員報酬があるのですが、この任用職員の採用基準なんかがあるのかどうか。これはアドバイザーの資料があるのですが、定員と任用職員と総合的に考えるような指摘を受けているのですが、任用職員は一般職員に準じた採用になるのか、あるいはそういうものではないことで採用できるのか、その基準というのが何かあるのかどうか。

委員長（山元経穂君）　総務課長。

総務課長（岡元紀行君）　会計年度任用職員の任用に関わる御質問でございます。

先ほどアドバイザーということもございましたけれども、非常勤職員の区分といたしまして労働性が高いもの、そして審議であるとかそういった知見を市政に生かしていただくための非常勤職員と分かれておりまして、会計年度任用職員につきましてはいわゆる労働性の高い職員ということでございます。いわゆる事務職の補助でありますとか、代表的な例で申しますと学校等における介助員、用務員、また保育所施設にある保育士、調理員等の補助、こういったものがございます。

そういったところで職員の必要が、配置が欠ける場合、事務量が増えた場合、そういったときに配置をしていただくために任用をするものでございまして、事前に登録をしていただいておりますその後、その職場の勤務することが十分大丈夫であるというようなことを面接等を行いまして任用をしているものでございます。そういった基準の中で任用しております。

以上です。お願いします。

委員長（山元経穂君）　宇野委員。

委員（宇野武則君）　採用の一つの説明の主なものは知見というようなことなのです。そこへ延長して採用することによって業務が円滑に行くというようなことが大体通り一遍で説明されるのですが、そうではないと思うのですが。県の採用方法なんかも、やっぱり私もよく知っているが非常に厳しいのです、やっぱり。現職の職員との関係がありますので、相当慎重にやらないと再任用というものが弊害なる場合もあるから。

今年もいろいろ話が出ておりますが、やっぱり再任用することによって明らかに行政がスピード感持っていくというような相当なメリットがないと、それは市長の裁量でできる

のかどうかよく分からないのですが、一般の職員の採用とは大分違うのだと思うのですが、そこらの採用する場合の最終的な権限は誰が持っている。

委員長（山元経穂君） 総務課長。

総務課長（岡元紀行君） 会計年度任用職員の、再任用職員とはまた別でございます、会計年度任用職員におきましては非常勤の職ということで、先ほど申しました事務に事務量がなくて職員に不足がある場合、また業務量が急に増えた場合、そういった場合に任用するものでございます。

これは総務課のほうにおいて登録をしていた職員の中から任用するものでございまして、その中での決裁と申しますか、庁内の事務分掌に基づいた決裁区分により任用を決定をしているものでございます。

委員長（山元経穂君） 宇野委員。

委員（宇野武則君） 予算もそう小さいものではないので、これからはどんどんどんどんそういうような口実で膨らんでいく危険性もあるわけですから、これ指摘されたように職員の一定の定数との整合性というのか、そこらをやっつけていかないと、また、これはもう減らせませんから、一遍やると。だから、そこらを一般職の定員数との兼ね合いがしっかりして、我々もそうですが、去年も3名雇ったのですが、そういうような不信を持つようなことではなく、こういう事業で関わるのだというような、関わるから必要なのだというような理解をできるようなものでない。

何項目か、任用制度、人件費も含めて、市長の肝煎りですから、これは、アドバイザーは。指摘しておりますよ。だから、そこらしっかり、人件費というのはなかなか動かせられないからね。だから、安易に増やすことは慎重にやっていただきたいと思います。

委員長（山元経穂君） 答弁よろしいですか。

その他ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） 続きまして、60ページ、61ページの上段部分まで、文書広報費の前までで質疑のある方はお願いいたします。

60ページから61ページの文書広報費の前まで、上まで。上の上。半分ぐらい。文書広報費はまた後で。その上まで。だから、中段まで。

道法委員。

委員（道法知江君） 地域公共交通に要する経費の中で、乗合タクシーの運行委託という

ことで2年間、デマンドタクシーの運行事業というのをされると思います。生活路線バス維持費の補助金というのが出ていますけど、これ8路線ということだったと思うのですが、概要のほうに、48ページの概要のところでしたか。地域公共交通の事業者運行継続支援補助金がありますけれども、経営に悪影響というその判断基準というのはどういったものなのでしょうか。

委員長（山元経穂君） 道法委員、続けて話すことがあれば。

委員（道法知江君） すみません。概要のほうの48ページに地域公共交通の運行継続補助事業ということで、新型コロナウイルス感染症の拡大により経営に悪影響を受けている交通事業者を支援するとありますけど、その中身、判断基準、どのような。

委員長（山元経穂君） 企画政策課長。

企画政策課長（三上満里子君） すみません。公共交通の運行継続補助事業に関する御質問ということで、その影響の基準が何かというお尋ねだと思います。

こちらが令和元年1月から12月と、令和3年1月から12月、この年間の利用者の実績を比較しまして、各月の減少率の平均値が3割以上である事業者を基準として補助金を交付するといたしております。

委員長（山元経穂君） 道法委員。

委員（道法知江君） 何件ぐらいということなのでしょうか。

委員長（山元経穂君） 企画政策課長。

企画政策課長（三上満里子君） 事業者の数ですけれども、事業者の数としてはバス事業者が1社、タクシー事業者が6社、それから船舶が5社を予定しております。

委員長（山元経穂君） 道法委員。

委員（道法知江君） だから、この経営の悪影響というのはあくまでもコロナによるということで国のほうが490万円出ているということの理解でよろしいでしょうか。

委員長（山元経穂君） 企画政策課長。

企画政策課長（三上満里子君） コロナの影響でということで行う事業です。

委員長（山元経穂君） その他ございませんか。

下垣内委員。

委員（下垣内和春君） 61ページの10番の地域公共交通に要する経費の12番、公共交通実証運行事業委託料410万円についてお伺いをします。

これは去年から実証実験が始まって吉名と仁賀でやっていらっしゃいます。今の利用状

況等が分かれば教えていただきたい。

委員長（山元経穂君） 企画政策課長。

企画政策課長（三上満里子君） デマンド型乗合タクシーの実証運行に関して、現在の利用状況ということでお尋ねでございます。

現在、令和4年1月末の時点で運行開始からの延べの利用者数といたしましては、仁賀地区で126人、吉名地区で1,248人ということがあって御利用いただいております。

委員長（山元経穂君） 下垣内委員。

委員（下垣内和春君） 令和4年度当初予算案では令和3年度に比べて委託料300万円ほど減少しておりますが、その理由についてちょっとお伺いさせていただきます。

委員長（山元経穂君） 企画政策課長。

企画政策課長（三上満里子君） 令和3年度から令和4年度の予算の減額部分につきましては、今年度実証運行初年度ということでコンサル会社の方に運行頻度の検討であったりとか、地域公共交通会議というのを開いておりますけれども、そういった会議での報告資料であるとかそういった部分の作成の補助など委託業務としてお願いしていた部分があります。来年度につきましてはそのあたり、ある程度職員のほうでも実施方法のノウハウとございますか、そのあたり大分、分かってくる部分もあるので、その委託をやめたことによる減額でございます。

委員長（山元経穂君） 下垣内委員。

委員（下垣内和春君） 令和4年度にはお試し、乗車体験等も実施するとかということで実施されますが、これは乗車率の向上ということも一つあるのか、地域によってはなかなかまだ根づいていないところがあるのかも分かりませんが、今後こういう形でデマンド交通については今からは必要なものと思いますが、今後どのように対応していかれるのかお伺いさせていただきます。

委員長（山元経穂君） 企画政策課長。

企画政策課長（三上満里子君） デマンド型乗合タクシーの運行につきましては、委員のおっしゃるとおり、今年度なかなかまん延防止だとか緊急事態とかコロナの感染拡大の防止ということで外出の機会をなるべく避けるということで地域の方が御利用なかなかしづらかったという声も聞いております。来年度はそういった面でまずは利用していただくということで慣れていただく、なじんでいただくということで利用促進のお試し乗車という

のも考えております。

そういったことを通じてまずは皆さんにしっかり利用していただいて、新しい今まで乗ったことがないというか、利用したことがないものですので、そこを認識していただいて、慣れていただいて便利なものだということで活用いただけるようにしっかりそのあたりをPRしていきたいと思っております。

委員長（山元経穂君） その他ございませんか。

井上委員。

委員（井上美津子君） 同じく61ページの生活路線、18番の生活バス路線維持費補助金というところなのですが、これは8路線、今度8路線ではないとは思いますが、その補助金ということで本年度からいったら1割ぐらい増になっているわけなのですよ。昨年からといったら減ってはいるのですが、吉名の路線、それがなくなってこの状況になっているということは、まだこれからもこの補助金が増えていく可能性というのがあるのではないかというふうに思います。この路線について少しお伺いしたいと思しますので、今のこの対象路線を教えてくださいたいと思います。

委員長（山元経穂君） 企画政策課長。

企画政策課長（三上満里子君） 今の生活バス路線の補助金の対象路線についてのお尋ねでございます。

こちらの対象となっている路線が、竹原駅と新庄を結んでいる路線、それから竹原駅からフェリー前を結んでいる路線、それと中通とフェリー前を結んでいる路線です。それから、三原営業所と中通を結ぶ路線です。

微妙にその停車場所がちょっと違っている場合があるので細かくいくとまたちょっと路線が違うところがあるのですが、主に今、あとそれから西条駅と竹原駅を結ぶ路線です。以上の路線になります。

委員長（山元経穂君） 井上委員。

委員（井上美津子君） 停車するところが違うということではあるのですが、最終的には5路線ということではよろしいのですか。

委員（井上美津子君） 企画政策課長、答弁できますか。

企画政策課長。

企画政策課長（三上満里子君） 路線が、何と言ったらいいのでしょうか。重複する部分、例えば竹原駅とフェリー前と中通とフェリー前というのは重複するのですが、こう

いったところを全部分けてカウントしていくと7路線になります。7路線で、すみません、安芸津の部分がないので、ちょっと待ってください。ごめんなさい。8路線です。

もう一度最初から申し上げます。竹原駅と田万里の路線、竹原駅とフェリー前、それから中通とフェリー前、それから竹原駅と安芸津駅、竹原から近畿大学、それと西条駅と竹原駅、三原営業所と中通、7つです。

委員長（山元経穂君） よろしいです。

井上委員。

委員（井上美津子君） どちらにしても路線としては維持していかないといけない路線だとは思いますが、このまま行けばまた増えてくる。利用者数というのはもう本当にいつ見ても誰もいないような状況が何かすごい続いていると思うのです。特にコロナの関係で出ていかない、外出しないということがここ最近は多いと思うので、1割増というところは今後も見込まれる、それ以上に見込まれることになると思うのですが、それに対してどのようにお考えか教えてください。

委員長（山元経穂君） 企画政策課長。

企画政策課長（三上満里子君） 生活バス路線に関しては現在の路線を維持するというのも必要なことだと思っておりますけれども、委員のおっしゃるとおり、その路線によっては非常に利用が少なくてほとんど補助金がないと運行が維持できないというものも多く出てきております。

そういう中で、そのまま市が負担をしたまま維持させるのか、もしくは今のデマンドの交通であったりとか、乗合タクシーであったりとか、いろんな方法があると思いますので、そういった別な形で交通手段を維持していくのかって、そのあたりは地域公共交通会議というものがございますのでそういったところで関係者の方とも協議しながら最適な交通手段の維持、確保というところを引き続き検討してまいりたいと思っております。

委員長（山元経穂君） ほかにございませんか。

宇野委員。

委員（宇野武則君） 文書広報……。

委員長（山元経穂君） まだです。

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） 委員長から一言注意申し上げます。企画政策課長、もし答弁に時

間かかるようであれば答弁に時間がかかりますというレスポンドをお願いいたしておきます。すみません。

次、文書広報費で質疑のある方お願いいたします。

宇野委員。

委員（宇野武則君） 61ページの1の18の負担金30万円。

委員長（山元経穂君） 東京竹原会ですか。

委員（宇野武則君） 東京竹原会。これは実行委員会の事務局はどこがやっておられるのか。もう相当歴史は長いのですが、市からは誰か出席者はおられるのですか。

委員長（山元経穂君） 企画政策課長。

企画政策課長（三上満里子君） 東京竹原会の実行委員会負担金ということで、東京竹原会の事務局としては東京のほうで世話役の方がいらっしゃいます。市のほうからは総会等の実施の際に市長であったり、総務企画部長であったりというところで関係者が出席をしております。

委員長（山元経穂君） 宇野委員。

委員（宇野武則君） 何を目的にやっておられるのか、せっかくこれ30万円の負担金というのは向こうの事務局のほうへ支払う負担金か、旅費なんかも含めたものかどうか。何をやっておられるのかよく分からないのですが、歴史だけは古いのです。東京竹原会から何かあったというような問題は一つもない。東京竹原会で何か竹原にこうしてもらったというような事案はないのですが、何を目的でやっているのか、その点について。

委員長（山元経穂君） 目的と予算内容。

企画政策課長。

企画政策課長（三上満里子君） すみません、この負担金に関しては東京竹原会が30周年を迎えるということで記念の行事をされるということで計上しています。本来であれば、昨年度がその年に当たってございましたけれども、コロナのことがありまして延期、延期となっておりますので、今の予定では来年度にその30年の記念行事をされるということで計上しております。

ですので、毎年度、毎年度この30万円を何か決まったもの、実行委員会の運営費として支出しているものではありません。竹原会に対してのそういう会の運営に係って毎年度決まった金額をお支払いしていることはございません。これはあくまでも30周年の記念行事をするという単年度のものでございます。

委員長（山元経穂君） 宇野委員。

委員（宇野武則君） 市長なんかも行くのは分かっている。分かっているのですが、東京竹原会ということだから何か目的あってこういうものでやるのですよというようなものがないと、いろいろな話は聞いておりますよ。だから、それをずっと継続する必要があるのかどうかということになるわけよ。

それは30周年は30周年でそれは今年予算組んでいるのだから。だから、東京竹原会ということになるとやっぱり会の目的というものが、やっぱり芯が通っていないと予算立てないでしょ、普通は。小さい予算だといっても30年も出していたら何かこういう竹原市にとってメリットがあるのです、こういうことがあるのですというようなものがないと、ただ行ってからわあわあというだけでは駄目だって私言っているのよ。

東京まで市長らが行くのだから、2日ぐらいかかるでしょ、行ったら。晩に会食もあるわけだから。市を空けるわけだから。そこらも含めてしっかりした目的がないと交付金は出されないのよ、普通は。だから、そこらの目的を聞いたのだが、わあわあ言っただけで、まあいいですわ。

委員長（山元経穂君） 総務企画部長、答弁できますか。

総務企画部長。

総務企画部長（平田康宏君） 委員から今おっしゃられたように、意義、目的は当然大事でございますし、10年ごとの刻みということで先ほど企画政策課長が申し上げましたが、約2年間ほどコロナの関係でできていないということで、状況によってはちょっと分かりかねますが、来年度は一応予定することといたしております。

確かにおっしゃるように負担金を支出いたしますので、意義、目的に踏まえましては当然配慮した上で取り組んでまいりたいと思っております。

以上でございます。

委員長（山元経穂君） よろしいですか。

その他ございませんか。

金森委員。

委員（金森保尚君） 1番、広報に関する経費だと思うのですが、竹原ファンクラブの運営事業について聞きたいと思っているのですが、事業概要のほうにページ数が61とあるのですが、内容が該当しなかったのですが、多分印刷費かなと思いながら質問いたします。

これは令和2年から実行ということで3年目になると思うのですが、過去2年の実績をお聞かせ願いたいと思います。施策等それに係った費用があればお願いいたします。

委員長（山元経穂君） 企画政策課長。

企画政策課長（三上満里子君） 失礼しました。竹原ファンクラブの運営に関しての御質問でございます。

竹原ファンクラブのほう、今現在令和2年度から立ち上げまして現在実施しております。現在の会員数に関しては、すみません。現在のファンクラブの会員数が今年、令和4年1月末時点で個人会員が979名、法人の会員で26件となっております。

これまでの取組といたしましては、マツダスタジアムでのPRであるとか、ドラゴンフライズの試合会場でのファンクラブ会員の勧誘であるとか、会員の方を対象にしたクイズとその正解者に向けての竹原の製品のプレゼントであったりとかそういったことを現在やっております。

本来であれば実際に竹原にお越しいただいて地域の方と交流していただくであったりとか、そういう竹原での活動というのを想定しておりましたけれども、現在のところコロナのこともありましてなかなかそこは実施には至っておりません。引き続きそういう現地での交流、そういったものをファンクラブの方、竹原を応援してくださるファンクラブの会員の方をお招きして実施できるように現在、これから事業内容を検討したいと思っております。

委員長（山元経穂君） 金森委員。

委員（金森保尚君） それとグッズの作製というのがあるのですが、どのようなものをつくられているのかお聞かせください。

委員長（山元経穂君） 答弁の前に、金森委員、よろしいですか。

今、昨年度の実績をお聞きされました。もしこれが昨年の実績を聞かれるのだったら、これあくまで次年度の予算なので、次年度の予算と関わるような聞き方をしていかないといけないので、今後は注意をして御質疑いただくようよろしくお願いします。

それと今の部分はよろしいです。次年度の予算のことなので。

企画政策課長。

企画政策課長（三上満里子君） 竹原市のPRグッズの作製について具体的な中身は何を想定しているかというお尋ねかと思えます。

今のところ考えているのはそういうイベントでの観光PRのパンフレットであるとか、

そういったものを配布する際に活用する竹原市だということが分かるような、そういう封入する手提げ袋というかビニールの袋であったりですか、あとはマツダスタジアムでのPR、そういったいろんなイベントごとで活用できるような、そんな大きなものではなくて啓発になるようなグッズを考えています。ちょっと今具体的にこれって決めているものとは今の手提げ袋的なところを考えております。

委員長（山元経穂君） 金森委員。

委員（金森保尚君） 竹原の魅力を発信するという意味ではこの事業は期待できるなど感じているので、ぜひ3年目ということで前向きにまた新しいことも行っていただければと思います。終わります。

委員長（山元経穂君） 今田委員。

委員（今田佳男君） 一番下のドラゴンフライズ選手派遣負担金、これ概要版でいくと24ページのプロスポーツを通じた魅力発信事業の一部ではないかと思えます。これスポーツを通じた魅力発信事業は92万7,000円という額になってまして、今の18番のドラゴンフライズ云々が18万7,000円、あとの細かいのは恐らく印刷代とか広告料とかいろんな分散してここの中に入っているという考え方でよろしいでしょうか。

委員長（山元経穂君） 企画政策課長。

企画政策課長（三上満里子君） プロスポーツを通じた魅力発信連携事業ということで、今委員がおっしゃられたとおりドラゴンフライズの負担金以外にもマツダスタジアムでのPRであるとか、そういった際に使うもろもろの旅費であるとか、背景のパネルであるとか、グッズの製作であるとか、そういったものもろもろが今積み上がっての92万7,000円ということになります。

委員長（山元経穂君） 今田委員。

委員（今田佳男君） 細かく恐らくなると思うので内容は聞きませんが、プロスポーツを通じた魅力発信ということで今回ドラゴンフライズ、カープ、それからサンフレッチェというの、これもしかすると教育委員会と絡むかも分からないですけども、昨年度パラリンピックに出られたような選手もおられて、当然竹原の魅力PRという点からいうともっと大切にされるべきではないかと思うのです。この点は御検討されたのでしょうか。

委員長（山元経穂君） 企画政策課長。

企画政策課長（三上満里子君） 昨年のパラリンピックに出場された田口選手とか、竹原

の御出身で活躍されているスポーツ選手はいらっしゃいます。そういった方にも竹原の魅力発信という点では御協力いただきたいと思っておりますし、一応田口選手に関して言うと競技の体験会とかということもちょっと企画を考えてはありましたけれども、なかなかちょっとコロナとかの兼ね合いもありまして実施にまだ至っていないところはあります。

そういったプロスポーツに限らず竹原の魅力発信につながるような取組を引き続き検討してまいりたいと考えております。

委員長（山元経穂君） 今田委員。

委員（今田佳男君） 先ほど金森さんが質問されたファンクラブです。ファンクラブの中にもそういった関係の関係者がかなり入っておられると思うのですよ。そういう方々をPRすると、PRをお願いするというので今回はこういう形なのだと思うのですけれども、今後そういうふうな形で検討していただくようお願いしたいと思っております。答弁はいいです。

委員長（山元経穂君） その他ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） それでは、次60ページの下段から財産管理費に入りますが、まずは63ページまでで質疑のある方お願いいたします。

金森委員。

委員（金森保尚君） 63ページの一番下に当たりますふるさと納税に関する経費ということで御質問します。

まず、一番経費で大きいのがシステム委託料で800万円なのですが、これ前年から見ると倍近くになっているということなので、これについて施策内容をお聞かせください。

委員長（山元経穂君） 答弁。

資産活用担当課長。

資産活用担当課長（井上顕良君） ふるさと納税へのシステム関係のことです。

ふるさと納税、先ほども申しましたがプラットフォーム等の増加も考えております。そういったプラットフォームなんかには支払うお金であるとか、そういったことが今年度増加として見込んでおりますので増額させていただいております。

以上です。

委員長（山元経穂君） 金森委員。

委員（金森保尚君） プラットフォームに係る費用が大きいということなのですが、それ

はできればどんな作業でどこにというのが分かれば分かる範囲でお願いいたします。

委員長（山元経穂君） 資産活用担当課長。

資産活用担当課長（井上顕良君） それぞれプラットフォーム、例えばふるさとチョイスでありますとか、楽天のふるさと納税等のプラットフォーム、これらを利用させていただくのに決済手数料であるとか、それぞれのシステムを使わせていただくというところで負担すべき費用が発生しております。

そういった形でシステム関係の保守等も必要になりますし、そういう事業者さんに固定部分で支払う部分と、あと納税額に応じて支払う部分等も発生しますので、実のところふるさと納税額が増えれば支出も増えるという状況もあります。今年度よりも来年度、ふるさと納税の寄附額が増えることも想定しておりますので、そこら辺も増額になってくる要因となっておりますので御理解いただきますようよろしくお願いいたします。

委員（金森保尚君） 竹原発信、これも発信ですがぜひ期待して……。

委員長（山元経穂君） ちょっと待ってください。手を挙げて。

金森委員。

委員（金森保尚君） すみません。竹原発信ということでこれも大きな事業と思いますのでぜひよろしく頑張っていたきたいと思います。終わります。

委員長（山元経穂君） すみません、先ほど63ページまでと言ったのですが、関連するもので5のふるさと納税等に要する経費に入るので65の上段までで財産管理費全般でお願いいたします。

竹橋委員。

マイクをお願いします。

竹橋委員、待ってください。

皆さん、委員それぞれの方、基本的な順序は厳守していただきますようよろしくお願いいたします。

竹橋委員。

委員（竹橋和彦君） ふるさと納税に要する経費から、先ほどの金森委員が聞かれた12番のふるさと納税業務委託料660万円、この概要はプラットフォームをつくるよというのと、概要には事務等を業務委託すると、こうあるのです。この委託先はどこですか。

委員長（山元経穂君） 資産活用担当課長。

資産活用担当課長（井上顕良君） この業務委託料に関しましては現在職員で行っている

事務の一部を委託することを想定した委託料でございます。これにつきましては現在どのような事業者があるかというところの調査等も行いながら今後決定していきたいというふうに考えております。まだ具体的な事業者というところまでは至っておりません。

以上です。

委員長（山元経穂君） よろしいですか。

その他ございませんか。

宇野委員。

委員（宇野武則君） 63ページの2の3の4の庁舎移転事業に要する経費1億6,000万円、用地等取得費となっているのですが、これどこなのですか。

委員長（山元経穂君） 資産活用担当課長。

すみません、もう一度答弁お願いします。マイクが今入ってなかった。ごめんなさい。

資産活用担当課長（井上顕良君） 失礼しました。

庁舎移転事業に要する経費、用地等取得費につきましては竹原合同ビルの土地建物の取得費用として計上させていただいております。

委員長（山元経穂君） よろしいですか。

その他ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） 続きまして、よろしいですか。

失礼しました。

続きまして、64ページ、65ページの企画費で2番の市史編さん事業に要する経費、65ページのみを除いて企画費をお願いいたします。

宇野委員。

委員（宇野武則君） 1の18、65ページの。JR複線化ですが、去年も聞いたのだけど、等といって書いているのが、去年答弁もそうだったのだが、等ではなくやっぱり予算ですから、乗降客の促進を図るとかというのならそれでもいいし、複線化、これは長いのですが、今実際もう1,000人切ったらバスに切り替えるという、JRの西日本がもう発表したのです。どこの自治体も皆心配しているわけですが、特に三原から竹原市については1,000人切るようなもう目前になっているわけですが、ここはやっぱり予算だから、等を書いたら右でも左でも予算が執行できるのだというような予算ではやっぱりいけないと思うのです。

だから、もう市長がリーダーシップ取って、これはこういうふうにしましょうというのならこういうふうにしましょうとって変更しないと、今頃複線化やなんかもうどこの自治体も頭の隅にもないのではないですか、実際は。そこらどうですか。

委員長（山元経穂君） 企画政策課長。

企画政策課長（三上満里子君） J R 呉線の複線化と期成同盟会の負担金に関しての御質問でございます。

昨年の委員会でも委員から御指摘がございまして、そういったことも踏まえてこの同盟会の事務局をしております呉市のほうに会の名称のことについても意見ということで話をいたしました。

呉線ということで三原から海田市までの区間になりますけれども、ここの沿線、自治体がこの同盟会に参画しております。呉から海田市、広島方面に関しては複線化ということを望まれる自治体がいらっしゃるといことも言われておりまして、そういうことを踏まえて名称についてはやはり複線化という部分は残したいと考えているというようなお話でございました。

これに関しては全体の自治体の意見もありますので、竹原市としての考えというか、意見としては述べさせていただいておりますけれども、事務局のほうとしてはこの名称の変更について当面、今時点では考えておられないというようなことでございますので、その部分はちょっと御理解いただければと思います。

委員長（山元経穂君） 宇野委員。

委員（宇野武則君） どっちにしても、三原市長にも言ってもわからないと、実際今うちのエレベーターだが、自治体が皆金を出すようになるのですよ。そこらは頭はないのだろう思うのです。J R やなんか絶対金出さないのだから。

だから、広から広島までというような話も聞いておりますよ。若干可能性があるには。それで、可能性がないのよ。だから、やっぱり市長同士がよく協議して、あなた達が話をするとそのぐらい程度であろうと思うが、もうやめましょうと、三原の市長と組んでやればもう間違いない。去年でももう繰越金が400万円近くあったでしょ、何もしてないということだ。

だから、そこら今の答弁を課題としときますが、よく話してみてください。予算ですから。

委員長（山元経穂君） 答弁よろしいですか。

委員（宇野武則君） いい、いい。

委員長（山元経穂君） 今田委員。

委員（今田佳男君） そこの聞くことで3点あるのですが大丈夫ですか。

委員長（山元経穂君） どこ3点。

委員（今田佳男君） 今のページ指定されているページ。

委員長（山元経穂君） 大丈夫です。一問一答で進めていってください。

委員（今田佳男君） すみません。

概要の中の関係人口、21ページの関係人口及び移住・定住人口創出事業ということで、これは65ページの中に細かく分けて入っているのだと思うのですが、概要版では竹原暮らし体験ツアーと移住パンフレットの作成という項目2つに分かれています。この体験ツアーが幾らでパンフレットの作成が幾らでという内訳が分かれば教えてください。

委員長（山元経穂君） 企画政策課長。

企画政策課長（三上満里子君） 概要の関係人口及び移住・定住人口創出事業のうちの竹原バス体験ツアーとパンフレット作成のそれぞれの経費の予算額の内訳が分かればということでお尋ねだと思います。

今予算上想定しているのが、パンフレットの作成で約146万8,000円です。それから、ツアーのほうの費用として、予算として67万2,000円を想定しております。

委員長（山元経穂君） 今田委員。

委員（今田佳男君） 今のツアーのほうで67万2,000円ということで、下の移住・定住プロモーション事業委託料なんかもこの中に含まれるということだと思います、数字を拾っていくと。

次に、お試し暮らし宿泊助成事業、18番の。これは20万円ですね。創出事業とお試し暮らし宿泊助成事業ですよね。実際お見えになる、こちらへ来られるだろうというのは何件ぐらいを想定されていますか。

委員長（山元経穂君） 企画政策課長。

企画政策課長（三上満里子君） お試し暮らし宿泊助成事業の今20万円の予算を計上しておりますけど、こちらの利用件数の想定は何件かというお尋ねかだと思います。

これに関しては、すみません、なかなか紙が開かなくて、ごめんなさい。失礼しました。20人でお一方4泊を想定しています。

委員長（山元経穂君） 今田委員。

委員（今田佳男君） 20人で1人4泊で20万円。こまかい計算ちょっとあれなんですけども、想定人数、これだけPRして想定人数を超えたと、お試しで来たい方が超えたと、可能性あると思うのですが、その場合はどうなるのですか。

委員長（山元経穂君） 企画政策課長。

企画政策課長（三上満里子君） 想定人数を超えた場合、だから予算が足りなくなったときどうするのかということですかね。

今のところは現状そこまでにはならないというか、人数はともかく4泊というのがかなり最大というか、長く見ていると思っておりますので、その予算の範囲内かとは思っておりますけれども、かなり大きく人数が上回ってくるようであれば補正を考えるとかそういったことも考えたいとは思っております。今のところはそこは想定はしていません。

委員長（山元経穂君） 今田委員。

委員（今田佳男君） そういう形で増えた場合の対応も検討をしておいていただきたいと思います。

それから、最後に移住支援金100万円が一番下にあるのですけれども、移住、市内に転居した場合云々ところあるのですけれども、該当される方の、どういう方が該当になるというふうな決まりというか、住民票の異動とかいろんなことがあると思うのですけれども、そういった決まりのようなものがあるのでしょうか。

委員（今田佳男君） 企画政策課長。

企画政策課長（三上満里子君） 移住支援金の100万円に関しましては、これは国のほうの事業に関連してのものでございますけれども、基本的には東京23区内にお住まい、もしくは23区内の企業にお勤めだった方が竹原市のほうへ移住されて、かつ県が就職先というか、求人を出している企業、専用のサイトに登録していますその登録されている企業に転職されるというか、お勤めになられた場合にこの支援金をお支払いするというもので、23区に住んでいるとか、勤めていたとかそういったことであるとか、登録している企業に勤めていただくというところが条件になってまいります。

委員長（山元経穂君） 今田委員。

委員（今田佳男君） これたしか去年も聞いたと思うのです、これ県の事業も絡んで、今課長言われたように、ある程度縛りというか、決まりがあるのでということで、東京圏と。例えば、東京圏以外から来られた場合に何も無いのかというふうなこともあると思うので、これ検討していただきたいというのは去年もたしか申し上げたと思って。この事業

自体は県と連動していることでしょうか。そういった検討はお願いできるのでしょうか。

委員長（山元経穂君） 企画政策課長。

企画政策課長（三上満里子君） 先ほどの首都圏というか、東京23区以外の地域の方からの移住の方に対する移住支援金というののそういった事業を検討するか否かというお尋ねかとは思いますが、そういったちょっとこの今の23区のもの実績も出ておりませんので、そういった需要があるかないかというところも分からないところなのですが、この支援金を出す、出さないに限らず移住の促進に係る取組というのは幅広く引き続き検討したいと思っております。

委員長（山元経穂君） その他。

堀越委員。

委員（堀越賢二君） 少し今田委員のところの確認をさせてください。

先ほど課長答弁の中に実績はございませんがという言葉があったと思うので、令和3年度においてはまだそういう実績がないということによろしいでしょうか。

委員長（山元経穂君） 企画政策課長。

企画政策課長（三上満里子君） 委員のおっしゃるとおり、令和3年度の実績はまだございません。

委員長（山元経穂君） 堀越委員。

委員（堀越賢二君） 先ほど東京23区内勤務、または住んでいることが条件ということでありましたが、これはそこに住んでいるというものは住民票がこの23区内にあるということなのか、住民票が例えば竹原とかに残ったままだけれども、住んで生活実態はそこにあるというものなのか、その内規というか、その規定はありますでしょうか。

委員長（山元経穂君） 企画政策課長。

企画政策課長（三上満里子君） 厳密に、すみません、ちょっとそこまで明確に書いてあったかどうか記憶に定かではないのですが、ただ23区に住んでいたとか、23区内の企業に勤めていたというところが年数で5年以上だったと思います。ですので、いわゆる大学に行っているとか、学生さんが卒業して戻ってきてというような方ではちょっと当てはまらない条件になっておりますので、その辺でかなり住民票が当然動くという前提ではないかと思っております。

委員長（山元経穂君） 堀越委員。

委員（堀越賢二君） その部分においてははっきり明確でないといけないと思いますので、この23区内だけでなく、先ほどもあったように多方面から来ていただくのが一番いいのですけれども、こういうところで事業をやっているということで内規というかそういうところが決まっているのかなというふうには思っておりました。そこはきちんと線引きは図るべきものだと考えております。

委員長（山元経穂君） 金森委員。

委員（金森保尚君） 65ページの企画の中の18番に当たると思うのですが、概要のDMO設立事業のことをお聞きしたいと思っているのですが、委員長、この概要のほうで該当ページが65ページと161ページと2ページにわたっているのですが、含めてお聞きしてよろしいでしょうか。

委員長（山元経穂君） 161ページのほうでお聞きになられたほうが良いと思うのですが、後。

委員（金森保尚君） 分かりました。

では、65ページでお聞きします。

恐らく18番の負担金600万円に該当するのではないかなと思うのですが、企画概要のほうに企業人の派遣負担金とあるのですが……。

委員長（山元経穂君） 金森委員、地域おこし企業人交流プログラム負担金のことですか。

委員（金森保尚君） 18の一番下の地域おこし企業人交流プログラム負担金600万円、この予算なのですが、概要のほうで企業人の派遣負担金等とあるのでこれに該当するのかなと思うのですが、どのような派遣の負担なのかお聞きします。

委員長（山元経穂君） 企画政策課長。

企画政策課長（三上満里子君） 失礼しました。

概要版の観光地域づくり法人設立事業のうちの企業人の派遣負担金の部分です。

こちらは予算書の65ページの18番の地域おこし企業人交流プログラム負担金になりますけれども、このプログラムが総務省が行っております民間企業の社員を6か月から3年以内の、3年を限度として地方自治体に社員を派遣して、その派遣先で業務に当たるといようなものになっております。その派遣に係っての、給与はその派遣元のほうで支払われるのですけれども、その一定額を負担するということになっておりますので、その負担金とあとその派遣されてきている民間の社員が特定のプロジェクト、事業を企画なり

業務に当たった際の企業人が関わったものに係る経費，本人の出張の旅費であるとか何がしか制作物をつくるとかそういった費用も一部含めて合わせて600万円が計上してあります。

委員長（山元経穂君） 金森委員。

委員（金森保尚君） これは今年度の負担金予算ということで，来年度も……。ごめんなさい，今年度に限ります。

質問を変えます。

このDMOの設立なのですけども，設立目標は何年何月ぐらいか，設定されていれば教えてください。

委員長（山元経穂君） 総務企画部長。

総務企画部長（平田康宏君） 概要のほうにございますように，16ページで今設立，準備ということでございますので，来年度につきましては設立準備に向けてということになりますと本格的な設立は再来年度になろうかと思っております。まだ何月というのはちょっと明確にはお答えできません。

先ほど企業人の派遣ということでありまして，これ令和3年度から企業人の派遣をしております。今年度からしております1名採用しております，現在は概要にございますようにDMOの創立の準備を中心に取り組んでおります，その中で町並み保存地区の有効活用事業の提案等にも従事していただいているということでございまして，来年度，令和4年度は新たな法人の設立に向けてこの企業人の方に注力してもらう予定ということで御理解いただきたいと思っております。

以上でございます。

委員長（山元経穂君） 金森委員。

委員（金森保尚君） 今年度1,332万3,000円の予算になっているのですが，これは竹原にとって大きな変革だと思います。このような法人を持って地域の観光づくりというのは非常に魅力のあるまちづくりになると思いますのでぜひ実行していただきたいと思っております。終わります。

委員長（山元経穂君） その他ございませんか。

竹橋委員。

委員（竹橋和彦君） 今の金森委員の付け加えて，このDMOを例えば広域連携的なものでやるのか，地域連携でやるのか，単独でやるのか，その構想は既に持ってらっしゃいま

すか。

委員長（山元経穂君） 総務企画部長。

総務企画部長（平田康宏君） DMO観光地域づくり法人でございますけど、これは多様な関係者と協働しながら観光地域づくりを実現するための戦略ということでございますので、市役所だけではなくて各種団体、関係する団体とともにつくり上げていこうというものでございます。

最終的には本市だけで完結するものでなくて、周辺市町、広域的な連携も含めてまちづくり、地域づくりを目指す法人として取り組んでまいりたいと思っております。

以上でございます。

委員長（山元経穂君） その他ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） 続きますして、ページが飛びます。70ページ、71ページの諸費で3番、市税、過年度償還金等に要する経費と5番の一般事務に要する経費を除きます。

質疑のある方はお願いいたします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） 続きますして、70ページから73ページまで、交通安全対策費について質疑ある方はお願いいたします。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） 続きますして72ページ、基金管理費について質疑のある方はよろしくお願いいたします。

下垣内委員。

委員（下垣内和春君） 73ページの1、基金管理に要する経費、24番、財政調整基金の積立金1億61万2,000円、昨年は160万円程度の積立てでございましたが、なぜ積立てをするのかお聞きします。

委員長（山元経穂君） 財政課長、よろしく申し上げます。

財政課長（向井直毅君） こちら積立てに関しましては、通常歳入歳出で剰余金が出た場合は基金に積み立てるというものを基本にいたしております。基金に関しましては平成23年度の約43億円をピークに8年連続で減少し、令和2年度決算時には約半減をいたしております。これで特に財政調整基金につきましても他市に比べまして1人当たりの基金

の保有額というのは平均値以下ということで今後の投資的経費も含めました財政運営に非常に今支障を来しかねないということで、可能な限りこれは基金を積み戻すといえますか、不測の事態に備えた基金の確保に努めたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

委員長（山元経穂君） 下垣内委員。

委員（下垣内和春君） 積み立てる、今、課長の答弁でいいのですが、やっぱり市民の方に財政再建なんかで御迷惑かけているのだから、市民のために1億円積み立てるのならその中で事業するというのを考えておくべきではないのかと私は思うのですよ。

積み立てるということの意味はよく分かります。だが、1億円積み立てるのならいくらかでも事業、市民のために事業をするということをやはり、考えていらっしゃると思いますが、積立てということは私も賛成は賛成ですが、そういう中で市民のために事業を行うということをしっかり考えていただいて今後対応していただきたいことと、やっぱり大切な基金でございますので、今後しっかり有効な活用を目指してやっていただきたいと思えます。

委員長（山元経穂君） 財政課長、答弁できる範囲で。

財政課長（向井直毅君） 特に基金も当然さることながら、事業につきましては先ほどもお話ししました選択と集中に努めながら、必要な事業にはしっかりと予算を投入したメリハリのある予算を今回も提案をさせていただいているというふうに考えております。

そういった中で、そういった事業を展開しながら剰余金についてはしっかり積立てをしながら今後の不測の事態にも備えていくというような両面性を持って財政運営というものはすべきだと考えております。

そういった意味で、このたびについては、久しぶりではございますが、当初予算から基金を積み立てることができる予算編成ができることになりましたが、今後は税収もどんどん減っていくということも想定されますので、そういったことも踏まえましてしっかりと予算については管理をしていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

委員長（山元経穂君） 下垣内委員。

委員（下垣内和春君） 最後に聞きますが、市として財政調整基金をどのぐらい積み立てることがあるのかどうか、最後お聞きします。

委員長（山元経穂君） 財政課長。

財政課長（向井直毅君） 特にこれは法令とかで幾ら幾ら積み立てるべきというものはございませんけれども、一般的によく言われているのが標準財政規模の大体10%から15%は最低財政調整基金というのは必要になってくるだろうというふうなことはおおむね一般論として言われているところでございます。

本市の標準財政規模から考えますとおおむねやはり15%程度となると12億円から15億円程度は最低必要になろうかということでございます。そういった意味ではまだもう少し財政調整基金の積立額というのは不足しているのではないかというふうに考えております。

先ほども申しあげましたように、県内平均の財政調整基金、1人当たりの基金積立額も平均値以下ということを考えますと、やはり十分な額とは言えないというふうに今認識しているところでございます。

以上でございます。

委員長（山元経穂君） よろしいですか。

その他ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） 続きまして、72ページ、73ページ、電算管理費について質疑のある方はお願いいたします。

また、次の統計調査費まで午前中にやらせてください。72、73の電算管理費について質疑のある方お願いいたします。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） では、次ページ飛びまして、88ページ、89ページ、統計調査費について質疑のある方はお願いいたします。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） それでは、午前中はここまでとし、議事の都合により、午後1時の再開まで暫時休憩といたします。

午後0時00分 休憩

午後1時00分 再開

委員長（山元経穂君） それでは、午前中に引き続き議事を再開いたします。

まずは、民生費、105ページ。

105ページの3、人権啓発活動に要する経費のうち、18、竹原市企業関係者同和問題研究協議会負担金についてのみ質疑のある方はお願いいたします。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） 続きまして、142ページから143ページまで、労働費について質疑のある方はお願いいたします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） 続きまして、農林水産業費に入ります。

144ページです。144ページの2、農業総務費、まずは農業総務費について、147ページの中段まで、農業総務費について質疑のある方はお願いいたします。

今田委員。

委員（今田佳男君） 147の5番、地域おこし協力隊に要する経費ですが、現在2人おられると思うのですが、予算としてはその2人の計算ということでよろしいのでしょうか。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） 地域おこし協力隊につきましては現在2名雇用しておりますが、こちら2名の報償及び活動費の補助金でございます。

以上でございます。

委員長（山元経穂君） 今田委員。

委員（今田佳男君） 2人、特に活動を活発にやられているようですが、今後新しく協力隊を入れるとか、そういうふうな御予定はないでしょうか。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） 現在、産業振興課におきましては山村振興地域、いわゆる仁賀、田万里町における農業支援ということで1名、また加工所の運営支援ということで1名雇用しておりますけども、やはり事業推進の上で必要な場合においては地域おこし協力隊の採用についても検討してまいりたいと思います。

以上でございます。

委員長（山元経穂君） その他ございませんか。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） 続きまして、146ページの下段から149ページの中段まで、農業振興費について質疑のある方はお願いいたします。

下垣内委員。

委員（下垣内和春君） 149ページ、3番、郷土産業振興館管理に要する経費の12番、施設運営等委託料についてお伺いをします。

令和4年度の当初予算案では令和3年度当初予算より300万円ほど減少しています。その原因についてお聞きします。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） こちらの施設運営等委託料でございますが、昨年度は800万円程度予算計上させていただいておりますが、R3年度については800万円程度でございますが、今年度は512万7,000円ということでございます。

内容といたしましては、施設を運営ということで現在、芸南漁業協同組合に委託をさせていただいているところでございますが、この間の運営実績、委託料の実績に基づきまして精査いたしました結果、令和4年度につきましては512万7,000円で予算を計上させていただいております。

以上でございます。

委員長（山元経穂君） 下垣内委員。

委員（下垣内和春君） 委託料が減るということについて事業量も毎年のように何か減少しているように感じているわけですが、竹原市の農業とか漁業の振興に、また6次産業化に向けたしっかりとしたものではやっぱり産業館をしっかりと活用していただきたいとずっと思っているわけですが、今後の促進をどのように考えていらっしゃるかお伺いいたします。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） 産業振興館につきましては市内の1次産品等市内農産物の生産者と連携した新たな商品開発や、今まで以上に鮮度を維持できる新たな技術によります魚の処理、あるいは市内飲食店等と連携をいたしました商品開発などを現在行っているところでございます。

また、郷土産業振興館におきまして加工いたしました商品、主には魚介類が多いところ

ではございますが、こういったものをいわゆるインターネット、SNS等で定期的に発信いたしまして竹原の第1次産品の魅力を伝えておりまして、販路の拡大、あるいは市のPRにつながっているものと考えております。

今後におきましても施設運営における収支を意識しながら、やはり新たな商品開発やSNS等による情報発信を積極的に行うことで魅力ある地元産品の販売を促進いたしまして、また第1次生産者の所得向上支援を図ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

委員長（山元経穂君） その他ございませんか。

宇野委員。

委員（宇野武則君） 149の3の12、今の郷土資料館の3の12の施設運営委託費です。それから、15の、さっき15の加工品原料。私のところへはいろいろ話が入るのですが、ここは一つの水産業の起点にならないといけないと思うのですが、ちょっと人材が、指導的な立場の人がいないのではないのですか。

二、三日前に専門家の方が行って見ていたら、タコの皮をむくのにもう手間がかかって笑って帰ってこられたが、どういような担当課と連携取っているのかよく分からないのだが、そう簡単なものではないね。やっぱり技術が伴わないと。よそに負けないような製品つくらないといけないわけだから。

この前もちょっと予算のほうでも言ったが、もうちょっと運営方法を根本的に見直して、海ブドウなんかもそうよ。もうちょっと熱上げたら大きくなるというのが分かっているのだが何の手当もしないでしょう。

それで、女性会の方なんか非常に応援してもらって、もうちょっと製品を、予算を下げるということがもう問題があるのよ。あれだけの設備を投資したのだから、最大限活用するような方法を考えて、職員も専門的なものを養成して、いろいろな意見交換しながらやらないと、あれは没になるよ、このまま行ったら。その場限りで雇ってできるようなものではないからね。やっぱり買った人が評価してくれないといけないわけだから。そこらはもうちょっと真剣にやらないと、今のように売上げが上がったから予算を増やしたのだというのなら分かるのだが予算下げるのでもこれだけの予算の中から何とか下げているわけだから、もうちょっとやる気でやってもらいたいと思うのですがどうですか。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） 現在の運営状況ということでございますけども、現在運営

につきましては市の担当職員と地域おこし協力隊、また漁協のほうに委託をさせていただいておりますが、そのスタッフ4名が現在加工業務に当たっているところでございます。

この4名につきましては郷土産業振興館ができてからの雇用という部分でございますので、確かにプロの料理人の方に比べますとどうしても技術的にまだまだ追いついていない部分はあるかと思えます。そういう中で現在、やはり技術向上ということになりますと、プロのすし職人の方に来ていただきまして調理指導をいただきましたり、商品を販売している水産業と申しますか、そういう販売いただいているところの方に来ていただいて調理の指導をいただいたりとかということで現在技術の向上にも努めさせていただいております。

売上げにつきましては現在魚のお刺身セット等が非常に好評ということでこちらの販売をメインにさせていただいているところでございますけれども、予算は縮小ということでおおむねの実績を踏まえて予算計上させていただいておりますが、やはり市内産品の商品開発という部分の大きな役割を担っている施設でございますので、いろいろと商品開発、また販路拡大等を努めながら施設を有効活用できるよう取り組んでまいります。

以上でございます。

委員長（山元経穂君） よろしいですか。

その他ございませんか。

堀越委員。

委員（堀越賢二君） 同じ部分での質問となります。

先ほど施設運営等委託料が減額となっている。15番の加工用原材料も220万円近く下がっております。これは何か双方とも関連性がありますでしょうか。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） 令和2年度までの予算計上につきましてはやはりなかなか通年を通しての実績も少なかったということで多めといいますか、積算の部分が精査が足らなかった部分はあるかなと思っておりますが、現在運営もおおむね2年間する中で実績も出ておまして、そういう実績を踏まえた上で予算計上をさせていただいているところでございますので御理解いただきますようお願いいたします。

委員長（山元経穂君） 堀越委員。

委員（堀越賢二君） せっかくあの瞬間冷凍で日もちのできる商品がネットでは全国どこ

にいても購入できるというようなどころもありますので、そのためにはやはり商材がしっかりしたものを、常に新しいものを探していく努力と、そうすれば自然と加工用の原材料というものは高止まりの傾向ぐらいのほうが様々な多くの商品開発というか、商品の提供につながるのではないかと思います。先ほどの答弁にもありましたので、実績に近い数字の予算となってきたという認識を持てばいいのかなと思います。やはり竹原をPRする絶好のこういう施設でありますから、本当に予算はしっかり取ってそのものがしっかり活用されて竹原のPRにつながっていく、産業の活性化につながっていくというほうがベストだと思いますので、この点についてはしっかり予算を取る、逆に取るべきだというふうに思っておりますがいかがでしょうか。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） この郷土産業振興館の活用につきましては確かに第1次生産者の支援、商品開発、販路開拓ということで取組をしているところでございますが、併せて市内飲食店の皆さんと連携して、市内飲食店が直接レトルト食品をつくりたいとか、商品開発をしたいということも共同でお使いいただいております。

また、委託といいますか、施設をそういう形で、商品開発でお貸ししたり、直接材料を持ち込んでいただいて加工してそのまま施設の使用料のみというそういったいろいろな使い方を今させていただいているところでございます。

ということで、予算については実績を踏まえて減額ということでございますけれども、活用についてはそういう商品開発を併せて飲食店等の商品開発、そういったものも活用しながら竹原産品をつくってまいりたいと思います。

以上でございます。

委員長（山元経穂君） よろしいですか。

その他ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） ないようですので、次、同じページ、148ページの畜産業費について質疑のある方はお願いいたします。

ございませんか。

148ページ、畜産業費です。

そのほかにもございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） では、続きまして林業費のほうへ移らせていただきます。

152ページ、林業費の林業振興費、2番です。152ページ中段から下の1、鳥獣被害対策に要する経費のみで質疑をお願いいたします。

金森委員。

委員（金森保尚君） 1番、18番の鳥獣被害総合対策交付金事業、管理費用に当たるのかと思うのですが、鳥獣被害対策事業についての質問になります。

予算としては311万5,000円というのが概要にあるものなのですが、このワイヤーメッシュ網を購入して貸し出すという事業の概要になっています。貸出先が大規模農家等とありますので小規模は該当しないのかなというふうに感じたのですが、その辺の条件があればお聞かせください。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） こちらの鳥獣被害防止総合対策交付金事業でございますが、こちらにつきましては市のほうでイノシシ用、また鹿用の箱わなを購入することと、捕獲に関わるICT捕獲機器、こういったものをご購入させていただきまして農業被害者、被害の大きい方に貸し出しているという状況でございます。

こちらの貸出しの基準ということではございますが、そちらにつきましては農業被害を受けられている農家の皆さんがやはり3名程度おられる地域にということで箱わな等を貸出しという形にさせていただいておりますが、箱わな等についても貸出しにつきましては農業者でなくそういう資格、狩猟の資格をお持ちの方にお貸ししてそちらで農業被害の防止を取っていただいているという状況でございます。

以上でございます。

委員長（山元経穂君） よろしいですか。

その他ございませんか。

宇野委員。

委員（宇野武則君） 153の鳥獣被害のところだね。1の7のところの有害鳥獣捕獲報償というのがあるのですが、586万5,000円か。これは先般、猟友会の方が猟友会の会員さんは8,000円、それからその他、市から依頼した有害鳥獣の捕獲については6,000円というような話があって、おかしいのではないかというようなことがあったのですが、何か理由があるのですか。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） こちらの7番の有害鳥獣捕獲補償についてでございます。

まず、予算計上586万5,000円ということでございますが、頭数につきましてはイノシシ610頭、鹿360頭、カラス45羽、小動物80匹ということで予算は計上させていただいておりますが、委員の言われます駆除班と個人の捕獲の単価が違うのではないかとこの部分でございますが、単価につきましては、イノシシでございますが、イノシシが駆除班が8,000円、個人捕獲が6,000円ということになっております。また、鹿につきましても同様に5,000円、3,000円ということで確かに単価差がございます。

こちらにつきましては、個人捕獲につきましては個人の資格をお持ちの方が狩猟期間内において個人で捕獲をし、有害鳥獣対策に御協力いただいているということでございますけれども、駆除班につきましては市のほうで捕獲指示をいたしまして定例的に、いわゆる山で捕獲いただいたり、市の指示の下に捕獲いただいているということからこういう単価差になっております。

以上でございます。

委員長（山元経穂君） 宇野委員。

委員（宇野武則君） どっちにしても有害だから捕獲するわけだから、その場合やっぱり窓口でしっかり説明してあげないと、どうしてそこに差別するのかというような感覚を持っているわけよ。だから、窓口が大事なのだから、窓口で丁寧に説明してこうこうですよと。

それから、今何か尻尾か何か持ってくるのでしょ。そこらをちょっと説明したら皆分かるのだから、そういう不信を持たれないように。やっぱり1頭は1頭だから2,000円の差をつけることないでしょうと言われたら我々も答えができないのよ。

だから、行政で交付金使ってお願いするのだから、窓口でしっかり説明してやってあげてください。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） この制度の仕組みも踏まえて窓口でしっかり対応させていただきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

委員長（山元経穂君） その他ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） ないようですので、続きまして156ページ、157ページの1

番、水産業振興費でこのうち1番の水産業振興に要する経費のうち、18番、漁業基盤改良事業補助金、これを除いたところで質疑をお願いいたします。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） それでは次、商工費に入らせていただきたいと思います。

158ページのまずは商工総務費になりますが、158、159の商工総務費になりますが、このうち2、商工業に要する経費、3、企業誘致事業に要する経費、4、工業団地に要する経費のうち、12、草刈り委託料の一部、18、竹原工業・流通団地送水設備工事負担金について質疑のある方はお願いいたします。

ございませんか。

吉田委員。

委員（吉田 基君） ここ3番、1区画だけ残っていた思うのよね。あれはもう埋まったのですか。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） 工業団地につきましては現在委員が御指摘のとおり1区画、現在もまだ残っている状況でございます。

委員長（山元経穂君） 吉田委員。

委員（吉田 基君） それでは、ずっと来ていないの。大体4年以上になる。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） G区画でございますが、こちらにつきましては引き合いと申しますか、問合せはございまして、現在も返事待ちという状況の企業が1社ございますので、一定に引き合いはございますけれども、まだ協定にまでは至っていないというところでございます。

以上でございます。

委員長（山元経穂君） よろしいですか。

その他ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） 続きまして、158ページの下段、商工業振興費、161ページの中段までで質疑のある方はお願いいたします。

今田委員。

委員（今田佳男君） 161ページの18番，サテライトオフィス等誘致促進助成金100万円と，同じく18番，未来技術人材育成事業補助金2,300万円，これも併せて聞かせていただきたらと思うのですが，誘致の助成金，それからこれどちらも町並みに来られているサテライトオフィスの事業だと思うのですが，それで間違いないですか。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） こちらの2事業とも市内の町並み保存地区に立地いたしました企業のご関係でございます。

以上でございます。

委員長（山元経穂君） 今田委員。

委員（今田佳男君） 誘致促進助成金のほうですけれど，これ100万円，従来非予算でゼロで新規に，実際に来られたら助成をするというやり方で，今後もし今おられる方以外に誘致が成功，成功してほしいというか，思いがあるのですが，その場合は補正か何かということになるのですか。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） まず，サテライトオフィス等誘致促進事業でございますが，制度の概要といたしましては市内にオフィスを誘致するという取組の中で，内容としては情報サービス業ということで情報サービスあるいはインターネット附属サービス，デザイン料，こういったインターネット関係を使った情報サービス業のオフィス誘致に対する助成ということでございまして，こちらによりまして市内産業の活性化，あるいは雇用促進を図るものという狙いがございますが，制度につきましては市内に立地をいただいた後，1年後，やはり事業者の定着性を見まして1年後にこの助成金を交付するということの制度の仕組みになっておりますので，今年度立地をいただきましたら来年度予算から計上させていただくと，そういうような仕組みになっております。

以上でございます。

委員長（山元経穂君） 今田委員。

委員（今田佳男君） だから，この誘致をどんどん進めていただきたいと思うので，また進めていただきたいと思います。

同じく18番の未来技術人材育成事業補助金2,300万円と割と大きい予算がついてまして，概要で見ますと産業を支える人材を確保，育成，定着させることにより本市の産業を活性化しにぎわいを創出するため，高等専門学校生が地域課題と，高等専門学校生と

対象がここで絞られているというイメージがあるのですが、竹原に高等専門学校はないですよね。だから、商船と、それから呉高専という対象になるのかとは思うのですけれども、竹原の中の、例えば高校とか、もっと言えば早い段階で中学とかという人たちに対して対象を広げると、この書き方だと高等専門学校生だけになるのですが、そういうお考えはないですか。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） まず、こちらの未来技術人材育成事業につきまして概要等について説明をさせていただけたらと思います。

こちらにつきましては、先ほどございました町並み保存地区に立地いたしました企業、また独立行政法人国立高等専門学校機構と竹原市のほうで連携をいたしまして委員会を設置し、高専の学生の事業者目線の経営知識、あるいは能力を養成しまして竹原発のスタートアップや課題解決につなげていくという事業を目指しているものでございます。

こちらによりまして、いわゆる学生の視点から市内の課題解決に根差した事業を展開していこうということでございますが、委員のおっしゃいますように高専については市内にはないということでございますが、高専とまず今回連携させていただくということについては、まず高専については理系人材が非常に育成という部分に取り組んでおりますが、大学に比べましてやはり実践的なカリキュラムということで、市内の課題解決等に根差した取組をされているという部分が1つございます。

県内では呉高専、大崎商船等がございしますが、この事業については全国の高専生を対象に事業を実施してまいりたいと考えておりまして、既に全国5校が参加されたいというお話も聞いております。来年度予定では七、八校程度が集まってこの取組をしていくという形になるかなと思っておりますけれども、こういうことによりこの事業を通じてやはり竹原がこういう若い高専生等の継続的な企業支援、あるいはイノベーションの町といいますか、そういう市のブランドが高まり、また産業の人材も集まってくるのではないかとということで期待をしているところでございます。

これによりまして地域の活性化、雇用促進を図っていききたいと、そういった事業でございます。

以上でございます。

委員長（山元経穂君） 今田委員。

委員（今田佳男君） 大体分かるのですけれども、市内の地域課題の解決ということにな

るとやっぱり市内の人材が何か絡むほうが良いと思うのですよ。だが、そのこのところも込めて、今こういう形でスタートアップされて形ができているのしょうから高専生ということになるのしょうけど、今後はそういう方向でも検討していただきたいと思しますので、答弁はいいのですが、よろしくをお願いします。

委員長（山元経穂君） 答弁よろしいですか。

その他ございませんか。

堀越委員。

委員（堀越賢二君） 161ページの私も18番で次世代ビジネスリーダー養成講座補助金、こちらの憧憬未来塾ですが、こちらの現在の実績のほうを教えてくださいょうか。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） この事業につきましては、委員のおっしゃいますとおり憧憬未来塾の事業内容でございますが、令和3年10月30日に開講いたしまして、現在令和5年9月までの2年間プログラムとして講座等を実施しているところでございます。参加者につきましては11名ということで現在実施しているところでございます。

以上でございます。

委員長（山元経穂君） よろしいですか。

ほかにごございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） ないようですので、続きまして160から163の上段まで、観光費について質疑のある方はお願いいたします。

金森委員。

委員（金森保尚君） 161ページ、観光宣伝に係る費用の12番、観光振興ビジョン策定業務委託料650万円の件です。

これさきに質問を1回させていただいた観光地域づくり法人税DMOの設立事業の委託だと思います。これどんな作成物を求めて委託されるのかお聞きします。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） こちらの観光振興ビジョン策定委託料でございます。

こういった竹原の観光ビジョン等につきましては平成27年に国の交付金を活用いたしまして外国人目線で作る竹原ブラッシュアップアクションプランというものを作成させ

ていただきまして取り組んできたところがございますが、このたびインバウンド観光の推進の充実、あるいは今般の新型コロナ感染症の影響など、観光を取り巻く環境が非常に大きく変化しているところがございますので、新しい旅行スタイルを実現するための戦略的な観光振興施策をまとめて市内のいわゆる観光関係者がそういうプランを共有していく必要があるかと思っております。

また、先ほどの午前中にもございましたが、施策を推進する上でのいわゆる旗振り役と申しますか、観光客の誘客や地域資源の高付加価値化等、実行する団体、いわゆる観光地域づくり法人、こういったものの設立も今後必要になってくるかと考えております。

これらの将来的な活動指針と申しますか、そういう将来目指すべき将来像の形を定めたものをこのビジョンの中で策定していきたいということでございますので、いわゆる観光の推進ビジョンということで御理解いただけたらと思います。

以上でございます。

委員長（山元経穂君） 金森委員。

委員（金森保尚君） 先ほど質問させてもらったのですが、このDMOの設立の時期について質問させてもらったときに、来年度、令和6年度ぐらいかなというのをお聞きしました。先ほどの回答にもあったのですが、やはりこのDMOという事業はその町をつくるという大きなものだと思います。なので、今の観光業に携わる個人事業主さん、企業さんとの絡みが大きな重要性を秘めているものだと思います。

その辺、市が指導するのだけれども、事業主さんとともに手を取って未来をつくっていく、そういう思想があるかどうかお聞きします。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） 観光施策の推進につきましては、確かに現在ですと観光課の関連の飲食店あるいはお土産店、また協会団体といたしましては観光協会等、様々な関係者が事業を展開しているところがございますが、この皆さんについてはやはり事業者視点と申しますか、各商売されている方、団体の方の事業者的な視点で事業を展開しているところがございますが、DMOにつきましてはやはり訪問いただく方、いわゆる顧客と申しますか、お客さん目線で事業を展開していくという部分をターゲットにしているという法人でございますので、今後につきましてはやはり来ていただく方目線で様々な事業を展開していくという中でDMOのほうの組織化を進めていきたいと考えているところがございます。

その中で、やはり現在事業展開されておりますので観光協会さん、あるいは商工会議所にも観光連携委員会というものがございます。それ以外にも交通事業者、宿泊事業者等ございますので、現在こういったメンバーでこういった体制がいいかという部分の検討会も設置しながら、意見を聞きながら進めさせていただいているところでございます。

以上でございます。

委員長（山元経穂君） その他ございませんか。

松本委員。

委員（松本 進君） ちょっとお尋ねしたいのは、この予算書では観光プロモーション委託料とか、先ほど今振興ビジョン等の質問がありました。

そこで、ちょっと竹原市の現状、観光客の現状はどうかというので、これも資料の要求した分でもらっているのが29ページなのですが、相当やっぱりコロナ前から比べたら観光客自体も、2019年度から2020年度の比較をしてみますと、相当落ち込んでいると。お客さん自体も39%あまりが落ち込んでいる。

それから、観光消費額についても34%弱の落ち込みということで、私さっき説明の中では将来に向けた取組というのは大切などころもあるのですが、今疲弊している部分というのは、僕の考えでは今疲弊しているいろんな市内業者への支援が急がれるなというふうに思っております。

そこで、ちょっと概略を聞きたいのですが、先ほど言った大幅な落ち込みの分で観光プロモーションとか将来に向けた新しい客への竹原に来てもらうというようなビジョンをつくるということは基本的にはアフターコロナを目指して対応されているということでこういった大幅に落ち込んでる分を何とか回復したいというような捉え方でいいのかちょっとだけ聞いておきたい。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） 観光プロモーション委託料に関わる質問ということでございます。

先ほども一部答弁させていただいておりますが、観光プロモーション事業につきましては本市では平成30年度から大きく国の交付金を活用いたしましてプロモーション事業を実施してきたところでございます。平成30年、令和元年、令和2年につきましては主には首都圏をはじめとした都市圏から竹原のほうに誘客していこうという取組を中心に取組をさせていただいておりますが、令和3年度、今年度からはインバウンドということで外

国人観光客の方をターゲットにしたような観光プロモーションをしていこうということで取組をさせていただいております。

予算特別委員会の資料でもございましたが、入込観光客数についてはコロナ禍におきましてやはり移動の自粛等ということもございますので大幅に減少しているというところがございます。どうしても移動の自粛、あるいは憧憬をはじめ市内の各イベントも中止になったということからやはり落ち込んでいるという部分はございます。

今後のプロモーションにつきましてはインバウンドということではございますが、やはりアフターコロナを見据えまして近くにあります広島空港も民営化され、国外路線の拡充も検討されているということもございますので、アフターコロナには多くの外国人が日本を訪れてくるものと考えておりますので、そういった方をターゲットにしながらいった取組はやはり先に、先にやっていくことも重要だと思っておりますので取組を推進してまいりたいと考えております。

以上でございます。

委員長（山元経穂君） 松本委員。

委員（松本 進君） ちょっと確認と含めてお尋ねしたいのは、先ほど言った観光客の落ち込みですね。この落ち込み、私も国内での竹原へ来てもらうのが多くを占めているのかなというふうに考えていたのですが、そうではなくて外国の方も大分来ているのでしょうか、そういったほうへ、今ターゲットをそこへ当てたプロモーション事業を行うということでしたから、ざっくり考えれば落ち込んだ人の多くはやっぱり外国人が占めている、そこにターゲットを当てて対策を取るというような理解でいいのかどうかをちょっと確認。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） すみません、説明がちょっと不足しておりました。プロモーション事業につきましては当然首都圏とか国内向けのプロモーションも実施してまいりますけれども、インバウンドにおいても取り組んでいきたいというところがございます。

以上でございます。

委員長（山元経穂君） よろしいですか。

その他ございませんか。

宇野委員。

委員（宇野武則君） 163の3の18、市観光協会補助金576万2,000円です

か。今この観光協会の運営に非常に問題があるように伺っているのですが、よく従業員の方が辞めますね。私はもう2年ぐらいもう行っていませんが、週に2遍ぐらい行っていたのだが、次から次へ人が変わるのだが、どこに欠陥があるのかって頭悩ますのですが、観光協会というのは非常に重要な役割を担っているんで、実際は観光案内所の関係者は、町並みは竹原の中心ですからいろいろ歩いてお客さんの意見を聞いたりするのが本来の仕事なのですが、ちょっと1年ぐらい、ああ、いい人が入ったなと思っていたらもう辞めている。辞めるの誰に原因があるかというたらトップのほうにあるのでは。

企業感覚で観光協会に入られた女性の方でもそうだが、やっぱり企業感覚で物を言うから続かないのよ。だから、もうちょっと指導的な、給料は皆出しているのだから、指導的な役割を發揮して、やっぱりいいところはいい、悪いところは悪い、指導するところは指導してもらわないと、今ほとんど観光協会へ行っている人いないよ、観光客でも。

私はどこへ行っても観光案内所へ一番先に行くのが癖になっているからね、よそへ知らないところへ行ったら頼りにするのよ、皆知っているから、そこの女の子でもお年寄りの人でも、皆観光の基本的なものは全部よく知っているから観光案内所へ行くのよ。

だから、もうちょっと金を、もう委託費出しておけばいいというようなものではなく、決算でしっかりしたものを出してもらわないと駄目よ。

今、竹まつりでも憧憬の路でもほとんど半分ぐらいになっているのではないですか。竹まつりなんかもう通れないぐらいいたのだから。竹原の場合はそれずっとだんだんだんだん増えるのではない、減っていくのが大体のパターンよ。

だから、もうちょっと観光協会が、いればいいわではなく、会長さんとか専務とか、専務が実務を握っているのだから、こういう場所での意見というのはしっかり言って、もうちょっと訪れるお客さんが、ああ、良かったなあというような感じを持ってもらえるような観光協会にしないと、いくら笛吹いても踊らないよ、それは。

だから、私はあそこの、土日には幕を張っている酒屋さんもいるが、ああいうところでも観光協会が行って、やっぱり女の人、中へ案内で雇ってというぐらいの手当をしないと駄目よ。あそこメインだから。どうですか、そこら。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） 観光協会につきましては現在、駅前の観光案内所の運営のほかは観光PRあるいはイベント実施、受入れ対策等の事業を展開しているところでございまして、市の補助金につきましては団体の運営に対しまして補助金を交付させていただ

いているというところでございます。

確かに委員の言われますとおり、令和2年まで人の移動が非常に激しかったということがございます。そういったことも踏まえ、現在は職員についてはずっと引き続き雇用ということでございますが、体制を強化ということで副会長も3人体制にされて現在強化し取組を推進しているということでもあります。

また、市の関わりでございますが、残念ながらこれまでできてなかった部分はあったのですが、今年度に入りまして毎月第2火曜日の昼から定例会議ということで正副会長、専務理事と市の私と担当係長とで意見交換会ということで事業について毎月今現在交換をしているところでございます。

やはり市のほうも補助金を出して終わるということではなく、こういった形でチェックといいますか、それぞれの活動について意見交換をしながら観光政策を推進してまいりたいと思います。

以上でございます。

委員長（山元経穂君） 宇野委員。

委員（宇野武則君） どっちにしても、市長も観光、観光言っているのだから、やっぱりどういうところにポイントがあるのか、明らかにそういういろいろなイベントがもうだんだんだんだん、バンブーのほうでもそうだし、すぐばらばらになるでしょ、竹原の場合は。だから、店舗でもやっぱり観光協会は昔皆中心になってやっていたのよ。そこが皆抜けてきているのよ。

だから、本来なら観光資源は多いわけだから生かされる方法はあると思うのだが、副会長さん3人言っているが、3人も常勤なわけだから、やっぱり現場を見ないと、私は歩いている人いつもよく話、話が好きだから、話しに行くのよ。本音言ってくれる人もいるし、1回通過地点だからいいところでしたという言ってくれる人もいるし。そういう意見を絶えず集約してどういうところにポイントがあるのかということを協会自身がしっかり検討して、どこへ力を入れればいいのか、入れて効果があるものなら予算も出してあげなさい。今やったらこれ死に予算よ。そういうことです。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） 観光協会の運営に関しましてはやはり市のほうも多額の補助金を交付しておりますので、引き続き意見交換を兼ねながら運営につきましては指導助言しながら推進してまいりたいと思います。

以上でございます。

委員長（山元経穂君） 宇野委員。

委員（宇野武則君） ぜひ一新をして出直してください。

委員長（山元経穂君） よろしいですか。

その他ございませんか。

堀越委員。

委員（堀越賢二君） 同じ部分にはなります。先ほどの答弁から伺いますとDMOと竹原市の観光協会のその業務内容というか、少し内容が違うというような答弁の中の話で私はそう受け取りましたが、そのような受け取りでよろしいでしょうか。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） 観光まちづくり法人につきましては先ほど説明させていただきましたとおり、どうしても観光協会さんということは会員目線も事業者目線も入っておりますのでそういう行動原理が働くというのはやむを得ない部分があるかなと思っております。

やはりDMOは観光まちづくりということでありますので、来ていただく方の目線で施策を展開していくという大きな違いがございます。

以上でございます。

委員長（山元経穂君） 堀越委員。

委員（堀越賢二君） とはいえ、これからの竹原市、観光の町として発展していくためには非常に重要なこのDMOの設立事業でありますので、そうなってくると業務内容は多岐にわたると思うのですよ。単なる来ていただいた方が満足するようなその場所の提供といったようなものだけではなくて、竹原市をPRする非常に大きい組織となり得るのかなというふうに思って期待もしております。

ただ、その反面そこでできることというのが観光協会が今やっている事業と少し重なる部分も出てくると思うので、感覚としたらこちらのほうが発展していった観光協会のほうが少し事業内容の縮小といったようなものが図られるのかなというふうに思いますがそうではないでしょうか。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） こちらの観光地域づくり法人DMOも含めてでございますが、現在新たな観光推進体制についてということで検討委員会を設置し、先ほど説明させ

ていただきました観光協会あるいは会議所，交通事業者，宿泊事業者等で今検討委員会を設置して検討しております。

DMOがどういった組織になるかという部分でございますけれども，県内の事例で言いましたらやはり観光協会とDMOが存在している組織，またもう全て一体化されたDMOの組織ということで県内様々な事例がございます。

本市についても竹原市のDMOで一番どのような形がいいのかということをして現在議論しておりますので，新たな組織づくりということでございますのでよりさらに推進できるような体制を構築してまいりたいと思っております。

以上でございます。

委員長（山元経穂君） よろしいですか。

その他ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） ないようですので，続きまして4番，消費対策費について質疑のある方はお願いいたします。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） 続きまして，162ページの下段，163ページまでです。地域活性化イベント事業費について質疑のある方はお願いいたします。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） 続きまして，土木費，186ページ。伝統的文化都市環境保存地区整備費，1です。6の1，186ページのほぼ上段部分で，この中で1，景観道路・修景広場維持管理に要する経費を除いた部分で質疑のある方はお願いいたします。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） それでは，議事の都合により，2時まで休憩とさせていただきます。

午後1時52分 休憩

午後2時00分 再開

委員長（山元経穂君） 休憩を閉じ議事を再開いたします。

続きまして、200ページ、消防費に入りたいと思います。

まず、一番最初、200ページ、消防費の1、常備消防費について質疑のある方はお願いいたします。

松本委員。

委員（松本 進君） それでは、常備消防で、資料も26ページに今の常備消防の体制を、人員配置の資料を出させてもらって、この見方は今の基準人員というのが72人、いろんな施設の整備に対しての72人という基準人員があって、現行は44人ということで61%の充足率というような言い方するのですが、私はしているのですが、この44人がずっとこの間、ずっと変わっていないのではないかなという確認と、特にちょっと言いたいのは、特にコロナがあってそういう職員の方の激務といいますか、緊張感といいますか、相当大変な御苦労されているということで、施設の整備ではカプセルみたいな減圧のあれとか、搬送のときのカプセルみたいなのを減圧でという施設整備とかというのはちょっと聞いているのですが、せめて人の配置の問題でも定数44ではちょっとやっぱり無理が起こるのではないかなということで増員が必要だということについてちょっと意見を求めておきたいと。

委員長（山元経穂君） 危機管理課長。

危機管理課長（堀信正純君） 常備消防職員の配置基準職員といった人数より少なくなっていると、業務に支障は生じないかということでの御質問でございます。

常備消防職員については配置基準人員より少なくなっておりますけれども、救急、救助業務等の兼務によりまして対応ができており、業務に大きな支障は来していないというふうに聞いております。

また、コロナ対応ということもございましたけれども、これについてはもし竹原消防、あるいは忠海分署等でコロナ対応、職員のコロナ感染が発生したということについては管内の消防から応援をしていただいて対応を図っているというところで、業務については支障を生じていないというふうに聞いております。

以上でございます。

委員長（山元経穂君） 松本委員。

委員（松本 進君） なかなか人を増やせということでは、はいというのなかなかいかないところもあるのでしょうかけれども、特にこの間ずっと充足率が低い状態で通常から来て、特にこの間、私が言いたいのはコロナの感染状況があったら相当職員の方々のスト

レスといたしますか、いろんな面で厳しい状況があるし、さっき言った感染者も発生したということでは、他から応援は来るのでしょうかけれども、よそのところがしわ寄せになってくるという面では長い目で見て今こういう増員をぜひ検討してもらいたいということに指摘をしておきたいと思います。

委員長（山元経穂君） 答弁よろしいですか。

委員（松本 進君） 一応あれば。

委員長（山元経穂君） 総務企画部長。

総務企画部長（平田康宏君） 常備消防の職員数につきましては委員のほうから従前からいろいろ御指摘いただいております。我々としましても局管内で、東広島市、竹原市、大崎上島町ということでこの東広島消防局管内で事務を行っていただいております。

協議等の場もございますので、これまでも委員から御指摘いただいていることをお話ししていますし、これからも十分関係団体と協議しながらよりよい方向に進むように取り組んでまいりますのでよろしくお願いいたします。

委員長（山元経穂君） よろしいですか。

下垣内委員。

委員（下垣内和春君） 常備消防に要する経費、201ページの委託料についてお伺いをさせていただきます。

今回、救急業務対応のために救急車を新しく忠海分署、または救急業務総合システム整備のために新しい装備等を整えていただきました。大変ありがたいと思っております。

その中で、消防救急車両についてですが、これは何年ごとに更新されるのかお伺いします。

委員長（山元経穂君） 危機管理課長。

危機管理課長（堀信正純君） 高規格救急自動車整備事業についての御質問でございます。

これにつきましては消防車両等更新計画、これは東広島の消防局のほうで策定をしておりますけれども、これに基づいて車両の整備、更新を行うというものとなっております。基準といたしましては10年以上、または年1万5,000キロの走行距離を基準に整備、更新をするというふうに聞いております。

以上でございます。

委員長（山元経穂君） 下垣内委員。

委員（下垣内和春君） せっかくいいものを令和4年度に購入していただくので、いつ頃の時期に入るのかを教えてくださいたいと思います。

委員長（山元経穂君） 危機管理課長。

危機管理課長（堀信正純君） すみません、時期等についてまだ詳細はこれからということと聞いておりますので、時期等はできるだけ早いうちに対応していきたいということは伝えていきたいというふうに思います。

委員長（山元経穂君） 下垣内委員。

委員（下垣内和春君） 早い時期に入れていただきますようによろしくお願いします。

常備消防につきましては市民にとって大事な業務でございます。今後消防施設の安全性や装備品の計画的な充実を図っていただくことが市民の生命、財産を守ることだと思いますので、その辺につきまして何かお考えをお聞きしたいと思います。

委員長（山元経穂君） 総務企画部長。

総務企画部長（平田康宏君） 装備品も含めまして、車両も含めまして、そういった装備品につきましては計画的な配備ということと、先ほどの委員のほうから常備消防の配置の職員のときにもやりましたが、コロナ禍とか自然災害はもとよりでございますが、有事にいち早く対応できるような体制というのは大切でございますので、その点も踏まえまして計画的な配備に努めてまいりたいと思っています。

以上でございます。

堀越委員。

委員（堀越賢二君） 同じ201ページの常備消防ですが、救急車の更新ということで先ほども質問があり答弁がありました。これどちらにしても納期が、今一般の車両でも非常に納期がかかっております。もともとこの手の車両、特殊車両になりまして艤装とかいろいろなことに時間が通常より多くかかってきますし、中の設備によってはその設備が時間をかなり有するものもあるのかなというふうに考えておりますので、早い導入というものは誰もが望むことではありますけれども、ある程度長めの納期というか、その導入時期に余裕を持っておかないとなかなか車のその準備ができないといったようなことになりかと思っておりますので、その点は十分事前にリサーチする必要があるかと思っておりますがいかがでしょう。

委員長（山元経穂君） 危機管理課長。

危機管理課長（堀信正純君） すみません、委員が言われたように高規格の救急車ござ

いまして、あまり医療機器等も高規格なものがございまして、また艤装等にも一般の車両等とは違ったような形で期間もかかるというようなところがございまして、これらの点を踏まえまして早めの対応を心がけていきたいというふうに考えております。

委員長（山元経穂君） よろしいですか。

その他ございせんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） 続きまして、2番、同じページ、200ページの2番、非常備消防費、この2番の非常備消防費で質疑のある方はお願いいたします。

ございせんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） 続きまして、ページ変わります。202ページ、3番、消防施設費について質疑がある方はお願いいたします。

下垣内委員。

委員（下垣内和春君） 203ページの消防施設整備に要する経費の10番、修繕料44万円でございますが、令和4年度は何か所程度の屯所等の修繕をされるのか教えていただきたいと思っております。

委員長（山元経穂君） 危機管理課長。

危機管理課長（堀信正純君） すみません、44万円ということで施設の修繕を計上させていただいております。ただ、今現在のところ、どこというところについては箇所も含めてまだ十分調査等ができておりませんが、地域からも施設修繕の要望等はございません。

ただ、今年の修繕の状況で申し上げますと、屯所関係が3件、防火水槽が3件という形でこれまで6件の修繕を行っているというような状況でございます。

以上でございます。

委員長（山元経穂君） 下垣内委員。

委員（下垣内和春君） 現在の消防屯所の多くは老朽化し、耐震性もないところが多くあります。その中で市民の安全・安心を守るための装備品等もたくさん入っております。その辺も含めて計画的に対応していただきたいと思っておりますし、また消防団の6分団、女性消防団でございますが、それには屯所的なものがない状況もございまして、今後屯所等の更新、修繕等を計画的に考えていただきたいと思っておりますが、これについてお伺いをさせていただきます。

委員長（山元経穂君） 危機管理課長。

危機管理課長（堀信正純君） 消防の格納庫，屯所の計画的な維持，修繕，あるいは新設等についての御質問でございました。

これについては現状を踏まえまして地域の方，消防団とも連携をしながら施設整備，また耐震整備等にできるだけ可能なところから取組を進めてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

委員長（山元経穂君） ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） 続きまして，同じ202ページから205ページまで，4番，災害対策費について質疑のある方はお願いいたします。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） では，消防費を終えて，次に公債費に移りたいと思います。

244ページ，245ページまで，元金，公債費について質疑のある方はお願いいたします。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） 続きまして，1ページ進みまして，246ページ，247ページ，予備費について質疑のある方はお願いいたしたいと思います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） それでは，次に行政委員会関係について議事を進めていきたいと思っております。

144ページ，145ページの1，農業委員会費で2，人事管理に要する経費を除いた部分で質疑のある方はお願いいたします。144，145で農業委員会人事管理に要する経費，2番を除いた部分で質疑のある方はお願いいたします。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） それでは，次に特別会計に移らせていただきたいと思います。

360ページから363ページまで，歳入歳出一括で行いたいと思っております。公共用地先

行取得事業特別会計について質疑のある方はお願いいたします。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） それでは、以上で総務企画部の個別審査を終了いたします。

次回は、3月2日水曜日10時から市民福祉部の個別審査を行います。

以上で第2回予算特別委員会を終了いたします。

お疲れさまでした。

午後2時14分 散会